41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

主任教授・男性

**良くなった

・1 時間半の会議のために日帰りで東京出張する事が激減し、研究に使える時間が増えた。
・2 時間の会議のために東京に行く必要がなくなったことは多少良い。
・ICT 機器、ソフトの利便性が格段に向上し、業務を遂行しやすくなった。
・いい面の方が多いかな
・いろいろと簡単に相談できる
・オンラインで移動などの時間が削減されたため
・オンラインで学会に参加できるようになった
・オンラインで参加できる点
・オンラインの会議では、時間と手間が格段に減るため。
・オンライン環境があればどこにいても研究の打合せなどが可能。
・かえって多くの人と話す機会が増えたので。ただし、プライベートな語りは減少。
・移動（出張）の減少などにより時間節約ができることになった利点は大きいと感じている。
・移動がないことがメリット。もちろん全部オンラインは良くない。
・移動による無駄な時間が節約された
・移動に要する時間や費用が減ったから
・移動時間が減った。オンデマンドでも聴講できるようになった。
・移動時間が減ったことにより、参加しやすくなり、またその分時間を研究に回しやすくなった。
・移動時間が減って、オンデマンドで時間のある時にゆっくり見られるようになった
・移動時間が削減され、その分を診療・教育・研究に費やす事ができるようになった。
・移動時間を取られないので、移動が必要な場合には物理的に参加できなかった会議や学会参加が出来るようになったため。
・移動時間を節約できる
・遠隔居住者との会議がしやすい
・遠方の学会でも参加しやすくなった。人とのつながりが保ちにくくなったのは悪い点。
・遠方の講演をオンラインで聞く事ができる
・遠方の方との交流が進んだ。
・遠方へ出張しなくとも情報が得られるようになったため
・往復の時間がなくなって時間が有効に使える
・会議がしやすくなった
・会議に出張する必要が減った。
・会議のために遠方に出張する必要がなくなり時間に余裕がでた
・会議の簡略化ができた
・会議の効率化が進んだため
・会場では質問が制限されるが、より多くの参加者と交流できるようになった。
・学会に参加し易くなった
・学会や会議の移動時間や拘束時間が減った
・学会参加が容易になった
・簡単に参加できる分機会が増えた。
・気軽に参加することができる。往復の時間がなくなる。交通費が削減できる。
・貴重な講演も聞ける
・共同研究や学会活動がし易くなった。一方で求められる業務量、処理速度も増加している
・共同研究者などとの打ち合わせが遠隔地でも容易に可能となった
・研究に割ける時間が増えた。
・研究に関する他機関との会議が手軽にできるようになった
・研究時間が増加
・現地に行く必要なく、学会への参加が可能なため
・現地への移動時間を研究に使える
・交通の時間が削減された
・効率よく進められるようになった
・最新の知識などを吸収するタイプのセミナーについては、移動時間や場所の制約から解放されて、メリットを感じる一方、対面

での機微な情報交換や人脈形成が不十分。
・ 参加しやすいので内容・質は向上したと思う
・ 時間が確保しやすくなった
・ 時間が効率的に使える
・ 時間の自由度が増えた。
・ 時間を有効に使えるようになったため。
・ 時間節約，スライドはよく見える
・ 時間的空間的自由があり、遠方の学会でも容易に参加できる様になった
・ 時間的余裕が生じた
・ 自宅　勤務先で参加できる
・ 出張が減り、移動時間が研究に向けられるため
・ 出張が減り、研究時間は増加したので。
・ 場所と時間の制約が減少したため
・ 情報共有がしやすくなった
・ 職場に居ながら新しい情報を入手出来る
・ 人的交流面を別にすれば、研究面での学習の時間効率が向上
・ 全体的には良くなったと思うが、研究者間のコミュニケーションの点では懸念も増えている。
・ 相談、議論を頻繁に実施できる。
・ 他機関とのディスカッションの敷居が下がったと思う。
・ 打ち合わせの移動時間が短くなったから。
・ 打ち合わせ回数の増加
・ 打ち合わせ地に出向く時間の節約
・ 地方だから
・ 地方にいても新しい知識や情報の習得が容易となった。
・ 同じ時間帯の別の講演を聞くことができる
・ 必要な学会に参加しやすくなった
・ 頻回に会議が可能になった点
・ 不要な移動がなくなり、その分の業務時間の確保ができるようになった。
・ 勉強の機会が増えた。
・ 無駄な会議が減った。

**変わらない
・ あまり影響を受けていないと思います。
・ オンラインでの講義や会議と「研究」は関係ないから
・ オンラインなら移動時間がかからないなど良い点、リアルでないから興味が持てないなど悪い点もあるから（相殺されて「変わらない」）。
・ オンラインにより、自分の時間は増えるが、その分、ネットワーキングしづらくなり、得られる情報は限られてしまうため、結局相殺されていると思う。
・ オンラインにより時間は節約できた
・ オンラインの学会が増えたからと言って特に研究には影響しないと思う
・ オンラインを使った研究業務は特にないため。メールで十分。
・ こちらも教育同様ですが、人の行き来がしづらいのはかなり影響が出ています。
・ この二つには関係はあまりないと思う。
・ コミュニケーションの低下を web 会議の回数で補っているため
・ どちらとも言えないという意味で「変わらない」を選択しました。
・ メリットとデメリットがある。
・ やることは変わらない。
・ やるべきことは同じ
・ 以前から全力なので
・ 移動がなくなったメリットと、臨場感がなくなったデメリットが相殺されて。
・ 移動がなく楽になった反面で情報収集（対面だからこそできるような）の質は低下した。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 移動の時間を減らすことで効率化が得られているが、研究業務は一番後回しになっているから。
・ 移動時間が少なくなった
・ 移動時間は取られなくなったが、学会などに参加している間に急患診療を行うなど、集中できなかった。
・ 何も変わらないから
・ 家からでも参加できる環境は良いが、研究で重要な余白の部分が欠如するため。
・ 会議はやりやすい面もあるが、Competitive な状況に変化はない。
・ 学会の参加方法が変わることが研究の質を左右することはない。
・ 教育単位は取得しやすくなったが、現地での情報収集の重要性は残っているため現地参加することが望ましい
・ 業務に変化はないが，情報が不足する傾向にある.
・ 業務的には変わらない。
・ 研究とはあまり関係が無かったため。
・ 研究にかける時間は変わらない
・ 研究には影響がないから
・ 研究に割く時間としては変化がない。
・ 研究に費やす時間は変わらない
・ 研究に費やす時間や情報量は以前と変わらない
・ 研究の時間制限は変わらないため
・ 研究はオンラインでは行えないため
・ 研究はしていない
・ 研究は基本的に労働と分離して考えています。
・ 研究自体がオンラインにより影響を受けない
・ 研究遂行に影響はない。
・ 研究内容が深まった感はあまりない。
・ 研究内容と関係がない。
・ 研究発表を手軽に聞ける点は良いが、対面での雑談から得られる情報が減った。
・ 元々必要な研究の時間が少ないため。
・ 現実の研究成果には結びついていない
・ 参加機会が増えても、働き方改革等で参加できないため。
・ 私は指導する立場であるが、研究者は時間の余裕ができた分ほかのことに時間を使うようになった
・ 時間と手間を削減できるのは良いが、対面で会って話をする機会が減り、新たな共同研究を立ち上げにくい。
・ 自分の領域の研究では必ずしも同じ場所にいなくても良いから。
・ 実際に行ってこそ、勉強になると感じました。
・ 出張が減るのは良いが、研究に影響するほどではない。
・ 情報を得る機会は増えたが、研究業務を深化させ効率よく進めるには対面でのやりとりも欠かせない。
・ 対面が減ったから。
・ 直接関連するとは，思えない。
・ 追認主体の会議で上京する機会が減ったのはよいことかも知れない。雑談によるブレイン・ストーミングの時間が減ったことは悪い傾向だと思う。
・ 特に学会はオンライン参加では知識吸収の場にはなるが研究者同士の議論による新しいアイデアを生む機能は低下した。
・ 特に影響を感じない
・ 放射線科における研究は元々コンピューター上で行われているのでリモートであろうと変化はない。
・ 余分な準備業務が増えただけで、実質は変わりなし。
・ 良くなった点と悪くなった点の両方があり、一概には判定困難だと思います。

**悪くなった

・ Face to face の meeting がしにくくなった
・ Face to face の会議体が減ることで、学会等で得られる情報量は減っているため。
・ いわゆる人と人との繋がりによる情報共有が低下し、研究に対するモチベーションが低下した。
・ うまく伝わらない
・ オンラインが多すぎて情報量が多くなりすぎる、時間がとれない
・ オンラインでの学会参加では、質問がしにくいから。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ オンラインではあまり、活発な討論にならない。
・ オンラインではインタラクティブにならない。
・ オンラインでは必要な情報が得られない
・ オンラインの便利さで会議回数、時間が著増している。
・ オンライン学会で、対面の学会に比べて、実際にえられる情報の量や質が低下した。
・ コミュニケーションが取れない
・ コロナのためが大きいが、直接会って共同研究の実施や人の交流ができない。海外学会にも直接は行かなくなった。あってディスカッション、その後のオフ会なども有用。一流企業では出社機会を戻しているところも多い。
・ スライド準備などに時間を要するようになった
・ ディスカッションになりにくい
・ ヒューマンネットワークの構築が難しくなった
・ フロアでの議論が減った
・ モチベーションの低下
・ 移動が伴うことでインスピレーションを得られていた部分が減少した気がします。
・ 移動時間中の研究アイデアの模索、共同研究者との対面でのコミュニケーションが減った
・ 一度の会議で得られるものや、交流から得られるものは、対面で行ったときの方が大きいので。
・ 会議を欠席しにくくなり、労働時間を会議に割く割合が増加した。
・ 学会で顔合わせをすること自体に意義があると思うから。
・ 学会は偶然の出会いが重要で、その機会が激減した
・ 学会参加ができず研究者とのコミュニケーションがとれない。discussion の場がもりあがらない
・ 学会発表による満足感や充足感が得られにくい
・ 議論、討論が深まらない
・ 議論が希薄になりがち
・ 議論に伴う深い考察ができなくなっている。
・ 共同研究が進みにくい。
・ 勤務時間外の平日夜や休日の会議が増え、余計に時間をとることになった
・ 勤務時間内に学会活動を行うため、集中できないことや専念できる日数が減ってしまった
・ 研究に関しては、web セミナーなど視聴できる機会は増えたのでその点は良いが、やはり学会に参加して学ぶのに比べると薄い感じはする。研究面では研究者同士が学会会場や会場外で直接意見交換することが重要と考える。ただ、これに関しては全面否定ではなく、研究者自体も意識改革して、web の活用や積極的にメールなどでコンタクトを取るなどの変化が必要である。
・ 研究者と直接対面で話し合う機会が減ったから
・ 研究者にとって対面での情報交換の機会がないのは価値評価が困難である。
・ 研究者間のコミュニケーションの機会が減少
・ 研究成果の発表に質問が減った
・ 現状の方式によるオンラインでの講義や学会・会議では、自由な発想や共同研究仲間を増やすなどが難しい
・ 現地で研究者同士の意見交換が困難となった。
・ 現地交流でのコミュニケーションが減ったため
・ 現地参加に比し、自分の発表以外にほかの演題やセッションの聴講が減った。
・ 個人研究なら良いが指導する立場としては対面でしかできないこともある。
・ 市町村や役場などとの打ち合わせの機会が減った。
・ 若い医師の研究意欲の低下
・ 若い医師を中心として研究に興味を持つ人が減っているように感じます。
・ 若手の研究意欲の低下
・ 取り残されている感あり
・ 情報交換が著しく低下。
・ 新たな共同研究者との出会いの機会が減った。
・ 深い議論や一見無駄なように見えて将来につながる議論が難しくなった。
・ 人的交流の相乗的な効果がなくなったため
・ 全般的にモチベーションが上がらない、情報収集の機会が減った
・ 他の研究者（’特に海外）との細かい打合せができない

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 他の研究者との交流が減った
・ 他機関の研究者との情報交換の機会が減少した
・ 対面でないとなかなか質問できない
・ 対面での議論ができなくなった。
・ 対面での情報交換の場が減った。刺激を受ける機会がへった。モチベーションが下がった。
・ 対面で同業者と会う機会が減った
・ 対面で得られる知見や共同研究の機会を失った。
・ 対面のディスカッションが重要
・ 対面の意見交換、人脈構築が滞っているように思われる。
・ 対面の減少で充実した連携ができない。
・ 対面型と比べて、ディスカッションがあまり活発にできないため、内容が希薄になりがち。
・ 大学院生が臨床研究への従事を避けるようになった
・ 直接コミュニケーションがとりにくくなった。
・ 直接の共同作業の機会が低下した。
・ 直接会って得られる情報が減る
・ 直接情報交換する機会などが減ったため
・ 熱意がなくなった。
・ 非公式な情報交換の機会がへった
・ 本当に学会の講義を聞いているのか？
・ 無駄話をしないから
・ 有効なプレゼン、質疑応答ができない。
・ 要件のみの会議が多くなり、新しい情報や知識を得る機会が減った。

主任教授・女性

**良くなった

・ オンラインが増え、移動の時間を節約できる
・ オンラインで新しい情報が得られるようになった。
・ 移動時間がなくなった。
・ 移動時間がなくなり、実験を止める必要がなくなった。
・ 移動時間が減り、時間を有効活用できる
・ 会議のために出張する必要が少ない
・ 会議出席のための出張が減らせたため。
・ 会場に行かずとも参加できるため
・ 参加に関与する時間が減少した分、その時間を研究に充てることができる。
・ 時間の余裕
・ 時間を有効に使える
・ 新しい知見を得ることで新規の研究計画をたてることができた。

**変わらない

・ 学会のための準備に費やす労力にほとんど変化はない。
・ 簡単に学会に参加できるようになったが、今後に活かすことができる人脈作りが出来ないのはネック。
・ 気軽に研究会に参加できるメリットはあるものの、玉石混交のためかえって時間を取られ、またディスカッションも不十分なため
・ 結局、変化はない。
・ 今まで会場へ移動していたのが、オンラインになっただけなので変化はない。
・ 準備に要する時間は同じだから

**悪くなった

・ 集まって討議する機会が減って多くの人の考えを聞きにくくなった。
・ 情報収集量が圧倒的に違う

教授（主任以外）・男性

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

**良くなった

・ in-person でないためさまざまな会議に参加することができた。
・ WEB で多くの会場の発表を聴けるようになったから
・ Zoom 会議を活用して遠隔でも交流の場を持てるようになった
・ オンラインで済ませられる内容のために出かけなくてよいから。
・ オンラインによって、以前より多くの研究発表が視聴できるようになりました。
・ オンラインの活用により、移動時間が減った
・ オンラインミーティングができる
・ スケジュール調整や移動時間が不要となった
・ テレビ会議での相談が可能
・ 移動がなくなった
・ 移動することなくいろいろな講演を視聴することができる
・ 移動時間がなくなったので助かる。
・ 移動時間が減ったことで時間を節約できた
・ 移動時間が少なくなり、時間の活用が可能となった
・ 移動時間の大幅な減少。とくに、地方では有難い。
・ 遠くに行かなくて済む。
・ 遠隔での参加が可能となった。
・ 遠隔地での学会に簡単に参加できるようになった。
・ 遠隔地への出張を減らせるから
・ 遠距離での話し合いができるようになった
・ 遠方の学会へも参加が可能となり、診療と研究を並行して行える機会がましました。
・ 会議の回数を緊密にできた
・ 会議を開催しやすくなった。
・ 海外へ出かける手間が省けた
・ 学会によっては、自身の発表ではなく他人の発表を聴くことや、単位を取得することが中心となる場合がある。その場合は現地に行かずに、聞きたい発表だけをオンラインで聞くことができた。
・ 学会に参加しやすくなった
・ 学会委員会等の会議・研究会議では移動時間が無くなり、効率化が図れる。
・ 共同研究がしやすい
・ 共同研究者など、特的のお相手との連携は密にとれるようになった。一方で、不特定の関係者との意見交換の機会や質は低下した（偶然の出会いや意見交換による研究内容の変化が少なくなった）。
・ 研究の時間が増加
・ 現地参加以外でも参加できるようになったことで、情報収集が容易になった
・ 効率よく情報が集められる
・ 資料収集や集会開催の方法の電子化が進んだので。
・ 時間が確保できる
・ 時間が有効につかえる（移動時間の短縮）
・ 時間場所を問わず出来るようになった
・ 時間的無駄（交通に係る時間など）が減った。
・ 出られなかった学会、とくに海外、に出席できる。
・ 出張が不要となった
・ 場所を選ばなくなった
・ 診療時間外に研究に係りやすくなった。
・ 特に学会などは現地に赴く必要がなくなったので、時間の節約になり、研究に費やすことができる。
・ 聞きたい内容だけを選んで聞ける。
・ 無駄な時間が減る

**変わらない

・ オンラインか否かは内容には無関係。
・ オンラインでは研究は進まない

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ オンラインで便利な点もあるが、リアルの良さが失われた。
・ オンラインは参加できているかが疑問
・ これもわからないのですが、新しい情報を収集しやすくなった（現地に行かなくてもよいので）とは言えると思います。
・ ミーティングはしやすくなっているが、対面の方が内容が濃く話ができる気がする
・ もともと業務時間内で使える研究時間は少ないから。
・ 移動の負担は減ったが、対面でわかる空気感はわかりにくくなった。
・ 興味のないことはオンラインでも聴講しない
・ 研究していない研究していない
・ 研究は、業務時間外で行っているから
・ 研究はその程度の変化でかわらない
・ 研究はやはり実験室での業務時間に左右されますので、大きな影響を受けていないと考えます。
・ 研究をしていない
・ 研究活動には影響しない
・ 研究業務とは必ずしも直結していない
・ 研究業務はしていない。
・ 研究業務への影響は少ない
・ 研究業務時間は元々縮小していたので
・ 研究内容自体は変わらない
・ 現在、研究のエフォートが高くないのであまり関係ないかも
・ 根本の部分では変わりません。
・ 最近、あまり研究業務を行っていない為
・ 参加しやすい反面、コミュニケーションに限界がある。
・ 時間の余裕は生まれたが、学会場での意見交換の機会は減った
・ 自身の研究とは関連が少ないから。
・ 実際に参加する学会は、オンラインでも増えない。
・ 打ち合わせはできるようになったが、全体として業務にはあまり変化はない。
・ 特に研究とは関係しないため
・ 特に変わりませんでした。
・ 特に変化がないと思います
・ 内容の問題
・ 発表はしやすくなったが、研究業務に費やす時間は変わらないため
・ 発表意欲が低下したかもしれないが、逆に今まで出席してなかった会にも参加することも増えた
・ 変化はあったが、どちらともいえない。良い面と悪い面がある。
・ 良い点：リアルよりも多くの勉強機会を得られる、悪い点：他施設の研究者らとの交流を通じて得られる情報が入らない。
・ 良い点と悪い点とが混在する
・ 論理的な内容が重要なので。

**悪くなった

・ オンラインだと集中しにくい
・ オンラインでは研究はできない。
・ オンラインでは集中できない
・ オンラインで録画や参加者の多いミーティングが増え、アイデアをぶつけることが減少した。
・ オンラインになり時間に関係なく会議が増加したため、研究のための時間が減少した。
・ こちらは逆で面と向かったディスカッションの方が重要です
・ ネットワーキングができなくなった
・ やはり，集まって議論や共同研究できないのは，非常に痛手．
・ 意見出ない
・ 一見無駄に思えた学会場での時間の使い方に、アイデアの道があることを知ったので。
・ 会議が多くなった
・ 会議や学会においては、会議や学会発表以外にも、他の研究者との personal communication が研究のためには極めて重要であるが、オンラインではその機会が失われてしまうため。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 学会参加の機会は増えたが、現地にいくことによる情報交換の機会は失った
・ 学会場で著明な方等の講演の後、フロアで少しだけ会話をして教えていただける機会が失われた
・ 議論がオンラインだと進みづらい。新しい人との交流が少なくなっている。
・ 繋がりが浅くなった
・ 研究には対面も必要
・ 研究者との交流が減った
・ 研究者と対面で会う機会が減り、モチベーションが上がりにくくなったと感じている。
・ 現地での討論ができない
・ 実際の参加によっていろいろなアイデアが生まれてくるがそれが少なくなった。
・ 手間が増えました（例えば参加証は〇週間後に自分でダウンロード，しかもわかりにくいシステムなのでかえって手間がかかります）
・ 集合開催は時間と場所を研究のために限定して行われるため没頭できるが、その利点が失われる。また人的交流も作りににくい。
・ 情報を得られない
・ 診療と管理業務が多く、研究時間が確保できない。
・ 人とのコミュニケーションが減った
・ 双方向の議論が不十分
・ 対面でないと本気で意見交換ができない
・ 対面では雑談が可能であったが、オンラインでは難しい
・ 対面参加の場合と比較してモチベーションが低下するように思う
・ 本音で話せない
・ 良い面もあるが、学会はオンラインでは行いにくい。
・ 論議できない

教授（主任以外）・女性

****良くなった**

・ 移動時間が減ったため研究に携われる時間が増えたという点のみ
・ 遠隔でも参加できるようになった
・ 遠方の学会に参加しやすくなった
・ 往復の時間を研究に使用できる。
・ 会議への出席による時間のロスが減った。ただし会議が増えた。
・ 学会で沢山聴講できる。
・ 共同研究者と頻繁にミーティングを行えるようになった。
・ 業務内容に見合わない移動時間の無駄が減少した
・ 効率化された
・ 国内外の会議や研究会など参加しやすくなった
・ 在宅など場所に縛られず、講義や会議への準備や参加が可能となったため、家族との時間を調整しやすくなった。
・ 地方なので移動の時間がへった

****変わらない**

・ 移動の時間が節約できる
・ 移動時間など考えなくてよい。しかし、雑談からの発展がなくなった。
・ 後で視聴する時間があると考えると学会への出席意欲が低下する

****悪くなった**

・ オンラインの授業は負担が返って大きい。またオンラインでの学会参加ではやはり把握しくれないことが多い。
・ 研究に関しては実際に人と接触できないことで看護研究は制限が発生
・ 参加出来る会議などが増え、研究自体の時間が確保できなくなった。
・ 情報交換の機会が減った。
・ 対面でのディスカッションが難しくなった
・ 内外の管理に時間を要し、研究を行う時間が減少した。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

准教授・男性

**良くなった

・ オンデマンドの講義で、移動時間が減った為、研究に割り振れる時間が増えた。
・ オンラインで済ませられる会議等は移動に要するロスタイムが圧倒的に減った
・ カンファレンスがしやすい
・ これまで時間的制約で出られなかった講義・会議などに参加しやすくなった。
・ その場にいなくても参加でき、知識を得ることができる
・ レクチャーなどを視聴できる機会が増えた。移動時間を要さなくなり、時間効率が改善。
・ 移動などの時間が削減できるため。
・ 移動の時間が節約できる
・ 移動時間が減った
・ 移動時間が減って楽。
・ 移動時間が無くなるため、研究にあてる時間が増えるため。
・ 移動時間の削減や任意の時間に視聴できるため情報収集しやすくなった。
・ 移動時間の節約と日程調整の簡便化
・ 遠くの研究会でも、参加できる
・ 遠方に出張しなくても学会参加できる。オンデマンド配信で時間に縛られず学会コンテンツを視聴できる。
・ 遠方の学会にも参加しやすくなった
・ 遠方の先生の講演を聞く機会が増え、得られる情報量が増えた。
・ 会議や打ち合わせのための移動時間が必要なくなった。
・ 海外の学会のハイブリッド参加などは、しやすくなった。
・ 外勤先や出張先から参加可能
・ 学会・会議参加による研究時間の減少が少なくなったため。
・ 学会に参加しやすくなった。
・ 学会への参加機会が増え、新規知識が入りやすくなった。一方、他大学研究者との交流の機会が減少した。
・ 学会やセミナーにオンラインで参加できる
・ 学会会場への移動時間を研究に充てられる。
・ 学会参加のハードルが下がった
・ 簡便になった
・ 気軽に学会参加ができる。
・ 共同研究者との打ち合わせ、discussion が簡単にできるようになった
・ 業務の合間での学会参加などが可能となった。
・ 勤務日でも、オンラインで講習を受けることが可能
・ 研究のための時間にゆとりができた
・ 研究の推進には有効である一方で、ものすごく会議が増えてしまい、働き方改革に逆行しています。
・ 現地に行く時間が省ける分、研究にかける時間が確保しやすくなった。
・ 現地に行けない状況でも web で参加が可能
・ 現地参加でなくても参加が可能となり勉強の機会が増える
・ 効率的な学会参加ができるようになり、他の業務に時間を割けるようになった
・ 行かなくても良くなり、業務の合間にできるため
・ 最新の知見を場所や時間を問わず得ることが可能になったことや、遠方の研究者との会議もやりやすくなった。
・ 参加しやすくなり良かった。
・ 参加のための移動時間が、研究・教育・診療に回せるため効率が良い。
・ 視聴できる時間が増えたため
・ 時間ができた
・ 時間が有効に使える
・ 時間の都合をつけやすくなった。
・ 時間の有効活用
・ 時間的、空間的制限が減ったから
・ 時間的な余裕ができたから

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 種々の情報が得やすくなった。
・ 集合しなくとも，世界中の研究者とミーティングを開催できる。
・ 出張が減って時間が作りやすくなった。
・ 出張による不在が減り、業務対応がしやすくなった。
・ 診療などで参加が難しかった勉強会に参加する機会が増えたから
・ 診療時間外の会に参加しやすくなった。
・ 他の機関との連携は頻回に行える
・ 多くの学会に参加できるようになった
・ 多数の学会、研究会に参加可能となったため。
・ 多様な意見に触れられる
・ 地方でも参加しやすくなった
・ 渡航の時間を削減できた
・ 東京日帰り出張がなくなって、勤務に余裕ができた。
・ 比較的隙間時間で気軽に参加できるため
・ 必ずしも現地に赴く必要なくなり、無駄な時間や労力が減った。
・ 無駄な移動時間がなくなった
・ 無駄な時間が減ったため、研究に充てられる時間が増えた
・ 様々な情報を入手しやすくなった。
・ 利便性が増えた
・ 旅費宿泊費を気にせずに学会などに参加できるようになった。時間帯にも余裕ができた。

**変わらない

・「研究」は研究者の考え方によると考える為
・ あまり研究をしていません
・ いつでも参加できるのはよいことです。一方で出張しないと結局仕事をいれてしまうので、オンライン学会に十分に参加ができないこともありました。
・ オンラインで情報収集ができるが，実際に参加することでプラスαの情報が得られる可能性もあるため
・ オンラインにはメリットもデメリットもあるので
・ オンラインの勉強会だと集中力が足りない
・ オンライン会議に慣れてきた
・ これは変わらないと思う
・ そこまでの影響力はない
・ メリット（気軽に参加できるなど）と　デメリット（確実な時間確保をしない）が拮抗
・ メリット、デメリットで、プラスマイナス0
・ メリットとデメリットそれぞれあり
・ もともと、研究に割く時間はそれほど多くはありませでした。
・ 移動時間を省略できる良かった点と、直接対話できない悪くなった点があり一概に言えない。
・ 一長一短であるため
・ 影響はない
・ 会議、研修参加の負担が減った。参加しやすくなった。
・ 会議・講義と研究時間はリンクしない
・ 会議に関してはオンライン化で非常に参加が楽になりました。学会に関しては、移動時間が無くなったことによるコストの低下、オンデマンド配信による聴講機会の増加など良い点もありますが、現地における研究者との交流が無くなったことによる情報交換機会の喪失、学会期間中も診療業務から解放されず休日に視聴する必要が生じるなどの悪い点も多々あります。
・ 会場往復の手間が減ったが、研究に時間が必要であることには変わりない為
・ 学会が多すぎます。
・ 学会はオンライン（特にオンデマンド配信）のお蔭で、聴講できなかった講演を再度聴くことができる。
・ 学習機会の増加とオンラインでの学習効率の低下で相殺されている
・ 関連がない
・ 研究していないため
・ 研究に割く時間は変わらない

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 研究に割ける時間が徐々に減っていたため、オンラインの影響と言い切れない
・ 研究に関しては、自分が興味があるものなので、変わらないと思います。
・ 研究に要する時間が増えるまでには至らない
・ 研究のみであれば、あまり変わらない
・ 研究は、結局は本人の意思なので、コロナとは大きな関連はないかも知れない。
・ 研究はマイペースで出来るから
・ 研究業務と学会参加の関連性が不明のため
・ 研究業務には影響はない。
・ 研究業務には直接関わらない。
・ 現在はオンラインからオンサイトに戻りつつある
・ 現地での情報量の方が多いので。
・ 現地参加が減り、研究への意欲向上の機会が減った
・ 参加は容易になったがプログラム外での交流（立ち話なども含む）がなくなった
・ 時間はできたが質は低下している
・ 若者の研究への関心の薄れが気になります。自身の研究にはとくに変化はありません。
・ 良い面と悪い面があり、不変としました。
・ 対面で参加できない学会などにも自由な時間に参加できる点は長所だが、対面による濃厚・詳細な discussion がやりにくくなったことは短所。まとめると「かわらない」。
・ 直接、議論する機会が減ったことによるモチベーションの維持の困難さがあるため
・ 渡航の手間が減ったかわりに、就労しながら学会参加できる。一方で、帰宅後に会議や発表を自宅でする。深夜の業務が増えた。
・ 特に変わった印象を持っていない。
・ 発表の場がかわっただけ
・ 良いところ：遠方の研究者との打ち合わせ、研究班会議などへの参加が容易になった。悪い所：耳寄りな情報は、対面でないと得られない場合がある。
・ 良い点と悪い点が双方存在します。良い点は出向せずに済むため、時間が有意義に使える。悪い点は学会参加等のオンライン化により直接参加により得られる利点は減少した。
・ 良くなった面(多くの学会にオンラインで参加できる)と悪くなった面(人のつながりが希薄になりがち)がある.
・ 論文作成や他社の論文を読んだりする時間が増えたが、他の専門家との対面でのディスカッションが減った

**悪くなった
・ 学会会場で対面でほかの施設の研究者と会うことで、共同研究に発展するようなケースが減少した。
・ オフレコでの話とうとうができず、横のつながりの形成が難しくなった。
・ オンサイトでの話し合いがなくなったことで、リモート参加では得ることのできない機会を喪失している
・ オンデマンドで通常学会参加では聴講できない講演を聞けるようになった一方、通常業務の終了後深夜まで時間が取られるようになった。
・ オンラインだけでは討議が不十分
・ オンラインだと講義を聞かずただ流しているだけで聞いていないことが多い
・ オンラインだと能動的なディスカッションがむずかしいため
・ オンラインで中途半端な参加で、プログラム以外交流がなくなり情報が入手しにくくなった。
・ オンラインのほうが効率が低下すると考えられるから。
・ オンライン学会では質問しにくく、対面よりもつまらないと感じる。
・ 演者の先生方との交流が希薄となったため
・ 会って話すことで研究が進んだが、それがなくなったため。
・ 学会については、単に話を聞く場ではなく研究者のコミュニティー形成の機会であるため、その機能が失われている。
・ 学会のオンライン参加では集中して勉強できない。
・ 学会等は発表するだけでなく、個別の議論が研究の発展や新規の共同研究の点で重要であり、オンラインでの学会参加は研究全体の activity の低下につながるものと考える。
・ 議論がしにくい
・ 共同研究では細かい点の打ち合わせができない
・ 研究者とのコミュニケーションがとりづらい

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 研究発表の場に参加しにくくなった。
・ 現場に参加しないと日常業務に埋もれてしまうということもわかりました
・ 現地（会場外）での意見交換の機会が減った。
・ 現地でのリアルタイムでの交流等が減少し意見交換などが減った
・ 現地に行かなくて済むようになった一方、学会に参加する時間が短くなった。
・ 交流が減った
・ 最新情報に触れる機会が減った。会議準備などかえって煩雑になり、余計な時間がとられる結果となっている。
・ 細かい会議が増えて時間の制約が出た一方アフタートークなどがないために実質的に情報交換としては全くできない。
・ 参加しなければいけない会議が増えた。
・ 資料・発表スライドなど事前に送付する義務が発生した。
・ 実際の現場での雰囲気や交流が大切
・ 集中力が減った
・ 十分に検討がされない
・ 情報収集がやりにくくなった
・ 新しいことを知る機会が減った
・ 人的なコミュニケーションの質が低下しているため。
・ 他の研究者と情報交換する機会が減ったから。
・ 他の分野の研究者との交流の機会が減ったから
・ 対面でないと得られないものがあるのは明らか。
・ 対面で確認がしやすいことがやりづらくなることがある。
・ 対面で参加しないことで刺激が減って、モチベーションが低下した。
・ 対面で情報を得る機会が極端に減ったから。
・ 対面で接することで可能な研究内容があるため
・ 誰が聞いているか分からないので、真に知りたいことは対面でないと得られない。学会参加で独立した学習期間が得られていた時間がかえって日常雑務の時間に消費されている
・ 直接会った方が生な意見が聞ける
・ 伝わりにくい
・ 特に、大学院生の発表訓練の機会が減ったように思う
・ 日本ではデジタル社会化が遅れており、オンライン機能はほぼ低レベルで推移しているため
・ 費やす時間が減った。
・ 忙しすぎる　こなせない
・ 無駄なミニ研究会が増えた
・ 話を聞くに際して、対面に勝るものはないから。
・ 闊達な意見交換がオンラインではできない

准教授・女性

****良くなった**

・ アクセスしやすい
・ いろいろな学会、特に海外の学会に気軽に参加できたから
・ じっくりといろいろな内容を聞くことができる
・ 移動の時間が不要になった。
・ 移動時間の短縮
・ 遠方の人との会議が楽に行えるようになったから
・ 家事の最中にも参加できる。ワークライフバランスに貢献。
・ 学会などに参加しやすくなり、勉強の機会が増えた
・ 学会に参加しやすくなった。
・ 学会会場に行かなくても参加可能となり、参加しやすくなった。
・ 形式的な会議は移動が少なくなったため、研究には良い面が多いと考えます。
・ 研究に割ける体力と時間が増えた
・ 研究協力者と連絡が取りやすくなった。
・ 交通に費やす時間が減った

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 講演参加が容易になった
・ 参加しやすい
・ 時間が自由に使えるため
・ 時間的、体力的に余裕が出たため
・ 打ち合わせしやすい。
・ 知識の研鑽機会が増えました。
・ 地方でも多くの学会や研究会に参加できるようになった。
・ 聴きたい講演がきける
・ 物理的距離の問題が減った

**変わらない
・ まだ本腰ではない
・ 遠方の方とは話しやすくなった。しかし話が通じていないこともある。良い面も良くない面もある。
・ 学会に移動する時間が省けて良い。学会で人と会えないため研究が進まないこともある。
・ 学会のオンライン参加は業務があると難しい。むしろ現地に行った方が参加できていた。
・ 機会は増えたが、なかなか活かしきれない
・ 効率的だとかんじることもあれば、やはり対面のほうがいいと感じることも多々あるから。
・ 他の仕事が増える一方なので、結局研究に充てられる時間が少ない。

**悪くなった
・ あまり真剣に参加しなくなった
・ モチベーションが下がった。
・ モチベーションが上がりません。
・ リアルな discussion が行われないことによる、アイデアやモチベーションの低下
・ 遠くの学会に行くことによるモチベーションが生まれない。
・ 対面による議論が減った
・ 直接交流による刺激が減った
・ 良い面もあるが、悪い面もある。研究者同志の web におけるコミュニケーションでは、confidential な研究の相談がしにくい。幅が狭まったことは否めない。あまり重要度の高くない会議は、オンラインでの参加で丁度良いと感じるものもある。

准教授・回答しない
**良くなった
・ オンラインセミナーに参加しやすくなった

**変わらない
・ 研究の主体は教育を受ける側の主体性であるため
・ 今のところ変化を感じないから
・ 臨床業務が忙しく、研究時間が取れない

講師・男性
**良くなった
・ いちいち遠方へ出張しなくてよくなったから。時間の無駄が省ける。
・ オンデマンドで視聴できるようになった。
・ オンデマンドで聞けない講義が聞けるのは利点
・ オンライン・オンデマンドでの学会参加で情報収集がしやすくなったから
・ オンラインが有用な面と、対面が有用な面を分けて考える必要があるが、選択肢が増えたことは良い。
・ オンラインでセミナー受講が可能になった
・ オンラインで学会参加できるメリットはある
・ オンラインの学会・講演会への参加のほうが容易であり、自己学習の機会が増えたため。
・ コミュニケーションの機会は増えた面もある一方で、以前なら断っていた無理なスケジュールが可能となり、結果的に時間外の労働が増える（無給）

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・それぞれに良さがあります
・ディスカッションや打ち合わせが離れていてもできるのはとても良い。
・ミーティングなどがしやすくなった。
・ゆっくりと見られる。遠方に行く必要もなく時間や経費が掛からない。学生の質問が増えた。
・リモートによる業務円滑化
・異動なしに情報交換する機会が増えた。
・移動などの時間を、研究に振り分けることができた。
・移動による肉体的なストレスや時間の消費が軽減された。自分のオフィスで業務が完結する。場合によっては自宅でも対応できる。無駄な時間がなくなったことで、必要な業務に割ける時間が増えた。
・移動の時間が減り、自分の研究の時間が増えた
・移動時間がないため、学会に参加しやすくなった。
・移動時間が減り、研究に費やす時間が増えた
・移動時間が削除でき有益と思われるため
・移動時間の削減による時間の創出
・移動時間の短縮。Web で参加しやすくなった。
・移動時間を研究業務に充てられる
・遠出しなくても知識の習得ができる機会が増えた。
・遠方で開催される学会にオンラインで参加することが可能になった。
・遠方に行かなくなったため時間が増えたため
・遠方の開催地であっても参加が容易になった。
・会議のための出張が減った
・会議の回数が増え、移動の必要がなくなったため、研究計画について検討する機会が増えたため
・会議や学会のたびに、現地に赴く必要がなくなった。
・会場への移動時間が節約できる。
・学会（海外含）への参加が対面のみの場合と比較して増加した。研究会にも参加しやすくなった。懇親会が無い点が残念であり、今後はハイブリッド方式での学会参加が望ましい。
・学会がオンラインで参加できる
・学会の移動が減少して時間の節約になりました。特に地方の大学にとってはメリットが大きかったです。今後も学会は hybrid にしてほしいです。
・学会会場までの移動時間の減少、会場の混雑緩和
・学会参加の移動時間などがなくなった。
・学会等に参加しやすくなり知識を広めやすくなった。
・活性化された
・議論を交わすことについて、遠方の研究者との交流が容易となった。ただし、対面の活動に取って代わるものでは無い。新たな選択肢が増えた。
・距離の差を埋めやすくなった。
・勤務の都合で参加できなかった学会にも参加できるようになった
・研究に関する出張が減り、オンラインで完遂することで、時間と手間が削減できた。
・研究会の量が増え、質も上がった。
・研究会等に参加する際、通勤時間を有効利用できるようになった
・研究時間が増えた
・研究打ち合わせがしやすくなった
・現地に行かなくてもよいため、参加できる会が増えた。
・現地に行かなくても話や講義を聞くことができ、参加しやすくなりました。
・現地開催の学会では同じ時間に行われているものは聴講できなかったが、web 開催であれば余すことなく視聴することができるため。今後もやっていただきたい
・現地参加が不要になり、移動の時間を研究業務に振り替えることができる
・交通費の削減、時間の融通がきく
・効率が良くなった
・講演会や学会への参加回数が増加した
・今まで興味のなかった分野や知らなかった分野の講演などに手軽に接することができるようになった。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 今まで参加できなかた学会に参加したり、オンデマンドで多くのセッションに参加できるようになった。
・ 今まで上司や部下が学会参加するために、自分だけが外来をせねばならず、専門医に必要回数の学会参加もできなかった。オンラインなので動画配信をみるだけで参加となる。
・ 時間に限らず視聴、繰り返し吟味することが見えた。
・ 時間の節約になり負担が軽減される。移動時間等。
・ 時間をかけて現地にいかなくてもよく、情報を収集しやすくなった
・ 時間的空間的制限が減った。
・ 自分の時間が増えた
・ 実験ミーティングがしやすくなった
・ 手段が増えた
・ 出かけなくても情報を、得る事が出来易くなったかも知れない。
・ 出張や移動時間の短縮
・ 純粋に学会に参加しやすくなったため。
・ 診療後に参加できる会が増えた
・ 積極的に参加できるようになった。
・ 全国各地の講演を聞く機会が増えた
・ 足を運ばなくても発表できる様になったから。
・ 他施設の共同研究者とのコミュニケーションが簡便になったため。
・ 打ち合わせはやりやすくなった
・ 対面の会議が容易になったため。
・ 地方からでも参加できる
・ 地方大学なので、講演会や学会の参加機会が増えた。また、他施設の研究者とのミーティングも容易になり、やる気があればチャンスも増えたと思う。
・ 同じ時間に違う部屋でやっていたセッションに参加できるようになった
・ 同様. 専門医の更新のための講習もオンライン化されたことも今後には非常に役立っている.
・ 不要な学会に参加しなくて良くなった。
・ 便利
・ 無駄が減った
・ 様々な分野の先生方の講演を拝聴する機会が増えたから。
・ 連絡が取りやすい
・ 録画授業などで時間が確保出来た

**変わらない

・ wet lab での実験は現場にいないと実施できないためオンラインが増えても効率化は困難
・ オンサイトでの研究への影響は元々大きくない
・ オンラインでの講義や学会への参加の仕方が不十分だった。取り組み方を変えようと思う。
・ オンラインでも十分であると感じる場面が多く、あまり変わりない。
・ オンラインでも知識は習得できる
・ オンラインで学会参加は容易になったが、自分の研究の仕方は変わらない。
・ オンラインで節約できる時間は自宅での業務に消える
・ オンラインにて時間ができたことにより論文執筆時間は増えた。一方、コロナ感染を警戒して臨床研究対象の患者の再診が減り研究自体は停滞した。
・ オンラインもよい
・ そんなに簡単なものではないと思います。
・ メールが多かったから
・ メールやオンラインでの雑用の増加
・ メリットとしては、交通に要する時間の削減。デメリットとしては、情報交換や意見交換の機会の減少による研究活性化の機会の喪失。
・ 意欲のある者は形態は問わず、変わらないと考える。
・ 移動時間が不要になったが変わらない
・ 影響を感じないから。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 遠方の学会でもアクセスしやすくなった反面、人との交流の機会は減ったため、良くなった面と悪くなった面がある
・ 遠方の人と情報交換できる良い面も、直接会ってじっくり話ある機会が減った悪い面もある。
・ 学会場に行かなくてもオンデマンドで視聴できるのは非常に助かるが、ちょっとした立ち話がなくなったため気づきが減った感じがする。
・ 感覚的に変わらないように感じる
・ 基本日中が診療教育で、基礎研究は時間外が多いため
・ 却って参加機会が増加。
・ 強制的な機会が減ったため、コミュニケーションも減り、意欲が落ちた。
・ 業務としては変わらないが、他の研究者との会議をオンラインで気軽に行えるようになった利点は大きい。
・ 研究したい人は、どんな形態でもやるし、そうでない人はやらない。
・ 研究そのものには変化はない
・ 研究にあてる時間は変わらないから
・ 研究には関係しないため。
・ 研究に時間が割けていないので評価できない
・ 研究の改善には資金と設備が必要。
・ 研究は各自で行えるから
・ 研究業務に対しては変化はありません。
・ 研究業務自体には大きな影響なし
・ 研究時間の確保が困難
・ 元々やっていない
・ 減るわけではないため
・ 現在のところ変わらない
・ 現地に行かなくてよいので余裕ができたが、研究者間でのコミュニケーションがとりづらくなった
・ 今のところは支障はないが、やはりリアルに会議することも必要になることがある。
・ 雑用が多い
・ 参加しやすくはなったが、取捨選択が難しくなった。
・ 参加できる学会・研究会が増えたのはメリットとして挙げられる。
・ 出席は楽になったが、自分が必要とする情報以外の情報が入ってこない。
・ 打ち合わせや情報交換が容易になりました。一方、ポスター発表を全て閲覧することは困難で幅広く情報収集することに障害が生じています。
・ 単位かせぎのための無駄な出張が不要になったが、議論するにはやはり対面が良い。
・ 地方の人員不足の面で変わらないので、変わった印象はありません。
・ 特に影響を受けていないと思うので
・ 入手できる情報が増えた一方、参加できる機会が増え、時間が減った。
・ 変わらないというより、分かりません。良くなったこと、参加への物理的障壁や移動コストの低下。
・ 悪くなったこと、ダイレクトのリアクション、偶然の出会いや発見、自身のモチベーションをあげる言葉や雰囲気などが感じられない。
・ 変化しましたが、質が変わったようには感じていません。
・ 本人の意識の問題
・ 良い面と悪い面が相殺
・ 良くも悪くもなってない
・ 臨床研究にはオンライン診療が普通にできることが必要

**悪くなった

・ Face to face が一番。オンデマンドで聞いても記憶に残らない。
・ Web では、出来ない共同研究等の打ち合わせの影響。
・ Web 講演では受講者のリアクションがわからない。
・ オンサイトでの聴講がベスト
・ オンラインだと臨場感や集中力の低下で理解力が低下している印象がある
・ オンラインでの学会では、自分の興味のある演題・公演に目が行き、広い範囲の知識を獲得する機会が減るように思われる。
・ オンラインでは質問の機会が限られること、聴衆の表情が見えづらい中での発表では、十分なディスカッションができないこと、

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

創造性に関しては対面の会議の方が良いことはすでに報告されていること。
- オンラインでは得にくい情報があり、その分研究に役立つ情報を得る機会が減った。
- オンラインで学会に参加する場合は出張（不在）とみなしてもらえず普段の業務をする必要があり、学会にフルに参加できないため。
- オンラインで参加した場合、病院内の仕事はできるため、自分の発表ぐらいしか参加できないため。
- オンラインの会議は話題に関して話すことには有利ですが、その他のことを雑談するのには不向きです。雑談の中で研究の新たな方向性を考えるといった機会が失われているように思います。
- オンラインの講演は参加していても真剣に聴講しないことが多い
- オンライン会議が増え、結果的に作業時間が減っている。
- オンライン学会は印象に残りにくい
- オンライン学会参加では、院内 PHS が頻回にかかってきて集中できず、得られるものは少ない。
- オンライン参加のみではモチベーションが上がらない
- モチベーションの低下
- 会議の回数が増え、研究に割く時間が減少
- 会議増加に因る燃え尽き
- 学会ではその場で議論することが最も重要であるにもかかわらず、一方的な発表で終わってしまうことが多くなるから。
- 学会で現地に行かないと通常の業務をしなければならないため、結果的にじっくり参加できない
- 学会に行かないとなかなかモチベーションも上がりにくい。
- 学会に参加しやすくなった一方で、対面でのコミュニケーションがとれないことは学会発表や討議の質が下がったから
- 学会に参加する頻度が減ったため
- 学会に集中して取り組めない。
- 学会参加時間の筈なのに日常業務を行わなければならない
- 学会参加数が増加しすぎて、研究の時間が削られている。
- 学会場で勉強する時間確保が難しくなった。
- 簡便なためいい面もあるが、直接現場で聴講することに勝ることはない。頭に残らない。その先生の肌感覚は絶対に必要。
- 顔を合わせることでの相互作用、共同研究機会がなくなった。
- 議論が効率よく行われないと感じる.
- 研究者間での意見交換の場がなくなり、新たな研究につながる情報やひらめきなどを得る機会が失われた。
- 現地参加でないと、結局、日常の業務を優先し、ちゃんと学会に参加出来ない。
- 限界があります。
- 自宅から遠方に参加できる一方、コミュニケーションは減った。結果的に悪くなったと考える。
- 自分の場合は見ようと思っていなかったのに学会場でたまたま見たポスター発表が実は研究に生かされていた。
  オンラインになるとどうしてもポイントや有名な先生のセッションしか見なくなった。
- 準備時間が長い。現地に行くほうが研究のメリットが、大きいため。
- 新たな教育資料の作成労力、負担の増加。
- 深い議論が減るような印象。ですが必要の少ない集会も多いので現状は Web がいいと思う。
- 診療の合間での学会参加となり、ほとんど聞くことができないため
- 診療の予定が入ってしまいオンデマンド視聴（現地参加しない）となり、そのまま診療に忙殺されて視聴出来ないパターンが起こることとなり、研究の質低下を招いた。
- 人と会わないため、質問する機会が減っていると感じるため。
- 対面での質疑応答が研究の質向上につながると考えます。
- 対面の機会が減り、他の研究者とのつながりが減少した
- 対面の方が濃厚なディスカッションができるため
- 対面的な参加で得られるリテラシーを得られない。
- 直接学会上でいろいろな意見を聞くことができない
- 直接研究について、会食などで相談する機会が減った
- 表に出てこない情報にアクセスしにくくなっていると思います
- 本来ならば現地参加のために欠席が可能であったら会議などへの出席頻度が格段に増加したため。
- 無駄な会議や研究会が増えた
- 臨場感に欠けると集中して学会に参加できない

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

講師・女性

**良くなった

・ オンラインで学会に参加できるため参加しやすい
・ オンラインの普及を活かした研究を始めた
・ セミナーは聞きやすくなった
・ わざわざ出向く必要がなくなったから
・ 移動の時間がかからなくなった分、業務に時間が費やせるようになった。また学会発表もリアルタイムだと観られる講演が限られたが、オンデマンドでいつでも何度でも見られるようになった。
・ 移動時間の軽減、費用軽減
・ 移動時間の短縮、繰り返し講義を聞くことができる
・ 移動時間を必要としない。
・ 育児中でも参加しやすい
・ 遠方の有識者に直接相談できる機会が増えました。
・ 会議・学会参加が、これまでは必ず現地へ出向かねばならなかったのが、オンラインで可能となったことにより、（現地での飲み会や観光を考慮せず）学会本来の目的の為であれば、時間の超節約ができる。すなわち、現地までの往復時間・交通費や会場内での移動時間が節約でき、多忙時でも自分の関連セッションのみに仕事の合間に参加するという方法も取れ、効率が良い。オンライン会議・学会により研究業務により多くの時間を割くことができている。（学会参加での現地の観光は良い機会であるが、学会中は現地を十分に観光する時間が割けない。学会がオンラインになり時間が節約できることにより、生活時間の中で現地を十分に堪能できる旅行時間を取る余裕ができると思われる。）会議・学会の聴衆側としても、会場で前方のスライドが前の人達で見えないというリスクが無く、自身のデバイスで確実に視聴できる。
・ 海外や学外の研究者とのやり取り、会議が非常に楽になった。
・ 学会クレジット獲得のために、わざわざ職場を空けなくて済むようになり、研究に費やす時間が少しは増えたように感じるので。
・ 学会のために出張しなくて良くなったので、研究業務により多くの時間が割けるようになった。
・ 空いている時間にオンデマンドのセミナーが視聴できる
・ 研究ミーティングをオンラインでできるようになった
・ 研究費がなくても遠方の人を対象としたアンケート調査やインタビュー研究が可能になったり、通常は出向けないような講習会に気軽に参加できるようになった。仕事やプライベートの時間を犠牲にする移動が不要になったことも大きい。
・ 現地に移動する時間が削減された。
・ 現地に行けない人もオンラインで参加できるようになり、発信したり学んだりする機会が増えた。
・ 今までより参加しやすいため
・ 今まで参加できなかったものへ参加できるようになり、習得できることが増えたため。
・ 参加しやすい、繰り返し講演を聞ける、遠方のかたとメールやオンライン会議でコミュニケーションをとることに抵抗がなくなり、はかどるようになった。
・ 参加の機会が増えた
・ 時間を有効に使える
・ 自由に時間が決められるから
・ 実際に会場に行かなくても参加できることは楽になりました。
・ 知識を得るチャンスが増えた
・ 物理的な移動、準備時間が減少し、時間が節約できたことで本来の業務に充てる時間が増えた。
・ 勉強する機会が増えたため。
・ 勉強会に参加しやすくなった
・ 北海道は地理的に不便なので現地に行かなくてよいのは時間や金銭的に非常に助かる
・ 無駄な現地・対面の会議が減りました。効率的なコミュニケーションになり、研究のパフォーマンスはあがりました。
・ 無駄な時間が減った
・ 無駄な出張がなくなった
・ 様々な講演を聞く機会が増えた

**変わらない

・ いつでも見られるから
・ いままで不十分だったものが、人並みとまでもいかないが多少プラスになったのみで、研究事態にインパクトを与えるほどの変化ではない。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ オンラインでの学会参加ができるようになったのは良かったが、業務に変化はないと思う
・ オンラインで参加しやすくなったが、現地で学ぶ機会が減少した。
・ これまで通り、しっかり研究するだけ。
・ システムの問題ではないと思う。
・ そもそも研究に割く時間をほとんど作ることができない環境にあるため。
・ そもそも忙しく研究はできない
・ もとから行ってないから。
・ より体力を消耗せずに参加しやすくなった半面、直接専門領域についての詳細な話し合いや人脈作りがしにくくなった。
・ 移動する手間が減ったが、緊張感がなくなった。
・ 移動なしで学会や会議に参加できるのは良くなったが、オンラインでの講演の聴講はいまひとつ集中できないことがあるのがデメリット。
・ 学会に参加しやすくなった半面、リアルでのかかわりが減ったことによるデメリットが大きい。
・ 学会に参加しやすくはなったが、研究時間の確保にはつながっていない。
・ 学会のオンデマンド配信は知りたい情報にいつでもどこでもアクセスできてよかったが、現地参加では日常業務から離れて学会に没頭できる利点もある。
・ 学会参加しやすくなっても研究業務は変わらないと思う。
・ 学会参加は「オンラインだから参加できる」場合と、「オンラインだから参加しない」場合があり、良い面と悪い面がある
・ 顔を合わせての打ち合わせの機会は減少している
・ 結局忙しいため、あまり変わらない。
・ 月に数時間捻出できただけでは研究業務に変化はない。
・ 研究に使える自由な時間が全くない
・ 研究の業務にオンラインを活用したことがまだないため
・ 研究業務は行っていない
・ 研究業務自体は変わらないと思いますが、あえていうなら移動時間を自由に使えることはメリットです。
・ 参加機会が増えたり、オンラインコンテンツへのアクセスが良くなった利点の反面、対面での講義・研究者との交流が減ったことのデメリットがある。
・ 自身の研究業務は変わらない
・ 特に変化を感じない

**悪くなった
・ オンラインの講演会が多すぎて研究に費やす時間が確保できない。
・ 学会に参加することで勉強したり、発見があったのが減ったから
・ 学会講演後のちょっとした質問ができなかった
・ 企業ブースの見学や知人と立ち話をする機会がなくなったこと。
・ 現地参加での意見交換を活発に行う機会が減少した。
・ 直接のやり取りができにくい

講師・回答しない
**良くなった
・ 現地開催では参加しなかった種類の学会に参加できるようになった
・ 参加機会が増えた
・ 打合せがしやすくなった。

助教・男性
**良くなった
・ Web 上でも学会活動で伝達できることは多い。
・ アクセスしやすくなった。一方で日常業務との境がなくなった
・ アクセスの障壁が減った
・ いつでもどこからでも参加できる。
・ いつでも時間を決めて考察できる。
・ いろいろな講義が聞けるようになった。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ オンデマンドもあれば好きな時間に参加が可能
・ オンデマンド配信により、有用な情報の見落としがなくなった。
・ オンラインでできることはオンラインでするようになって効率化した。
・ オンラインでの会議が増え、現地に行く手間が省けるため
・ オンラインでの学会参加が可能になった
・ オンラインでの講演が可能となり時間を有効に使えるようになった
・ オンラインで視聴できることにより現地参加せずとも情報が得られる。
・ オンラインで情報収集しやすくなった。
・ オンラインになり参加することの難しかった講演への参加はしやすくなった。
・ オンラインによって、様々な研究者との情報共有や意見交換のハードルが下がったため。
・ オンラインの利便性によって、打合せなどがスムーズになった。
・ オンラインは受講しやすい
・ オンライン学会が有用なので情報を得やすい
・ オンライン講義、講演などができるため、時間を使いやすい。学会参加が容易になった。
・ カンファレンスなどの議論が簡単にできるようになった
・ デスクワークが増えた
・ ハイブリッド学会により、会場に足を運ばなくてよくなり、時間が増えたため
・ より多くの研究触れ知識やアイデアが増えた
・ より多くの講義をチェックできるから
・ より多くの国外・国際学会に参加できる。
・ リモートが集中しやすい
・ リモートで研究会に参加しやすくなった。
・ リモート会議により負担が減った。
・ わざわざ遠方に出掛ける移動時間が不要になったから。
・ 移動が不要なのでより多くの情報が入るようになった
・ 移動コストが激減したほか、ミーティングの日時調整が楽になった。
・ 移動なく参加しやすくなった。ディスカッションの質は低下あり。
・ 移動に要する時間が減少した。
・ 移動に要する時間を削減できたことは良いと思います。
・ 移動の手間が省け、時間が有効に使える。
・ 移動の必要がなくなったので、参加しやすくなった。
・ 移動時間がなくなったことにより他の業務に割ける時間が増えた
・ 移動時間がなくなりその時間を別のことに使えるようになった。
・ 移動時間が減り、その分時間確保ができるため。
・ 移動時間が減り、自分の時間に使えるようになった
・ 移動時間が減ることによって、研究にさらに打ち込みやすくなった。
・ 移動時間が節約できる。
・ 移動時間が短縮することで隙間時間で研究が進むことがあったため
・ 移動時間の減少によって研究のために割り当てる時間が増えました。
・ 移動時間の短縮分、研究できる。
・ 移動時間を研究時間に充てられるため
・ 移動等に費やす時間を充当できるから
・ 一度に多くの発表を聴くことが出来るようになった
・ 遠くの施設にいる先生とのやりとりがしやすくなりました。
・ 遠隔で多数の学会に参加可能
・ 遠隔地での学会を聴講できたり、他機関の研究者と web 会議で議論できるようになったのは、とても便利だと思う。
・ 遠方での学会参加が容易になった。
・ 遠方での学術大会にも、より気軽に発表・聴講の申し込みがしやすくなった。
・ 遠方で行われる学会でも参加しやすくなり、情報収集の機会が増えた。
・ 遠方の医師ともオンラインでつながることができるのは非常に効果的と考える。
・ 遠方の学会の赴く時間が必要なくなった

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 遠方の研究者との会議が可能になり、学びや進捗が増えたため
・ 遠方へ移動する時間がなくなった分、研究などに時間を使用できるので
・ 遠方へ行かずして、勉強会に参加しやすくなり、知識を得やすくなったため。
・ 往復、宿泊の負担軽減。
・ 沖縄県なので、移動の負担が減ったのはありがたい。
・ 会議がオンライン化されて、時間が節約され、研究に回せる。
・ 会議が開きやすくなった
・ 会議の為だけの出張が減った。
・ 会議や学会参加のコストが減った。
・ 会議参加がしやすくなり時間短縮できている。
・ 会議室に行かなくていいから超助かります
・ 会場で聴講するより音声が鮮明で、スライドもよく見えます。
・ 学びやすくなった。
・ 学会・研究会参加の機会が少し増えた。
・ 学会での勉強の機会が増えた。
・ 学会で遠方にいくのが大変なときでも参加できるのは助かった
・ 学会にわざわざ行く時間を節約できるようになった。
・ 学会に現地参加以外の選択肢が増えたことは良かった。
・ 学会に参加することが容易になった
・ 学会の web 方式による聴講のしやすさ
・ 学会の移動時間がなくなったので有効に使える。
・ 学会の現地に行かなくても、オンラインで最新の研究知識を得られるようになった。
・ 学会や講義などに参加しやすい。
・ 学会会場に行く手間が減った
・ 学会現地参加がマストではないものが増えて、時間とお金の節約でよい
・ 学会参加が簡便となり、研究に充てる時間がやや増えた
・ 学会参加が気軽に出来るようになった
・ 学会参加が容易になった　ただし対面での議論等が減少して負の側面もあり
・ 学会参加可能機会が増加した。
・ 学会出張や時間外での研究会参加などが減ったので、その分時間ができた。
・ 楽に情報が入手できるようになった
・ 機会増加
・ 気軽に研究会などに参加できる機会が増えた
・ 気軽に参加できるようになった
・ 教育・学会関連の時間を減らすことができ、研究にかける時間が増えた。
・ 勤務しながら学会に参加できる
・ 隙間時間を有効に使える
・ 研究ミーティングの開催が容易になった
・ 研究室を離れる時間が少なくなった
・ 現地に行かずとも発表ができるから
・ 現地に行かずに気になる勉強会に参加しやすくなった
・ 現地に行かなくても、自他ともの研究の情報が input/output できる。
・ 現地に行かなくてもいいことで、遠方の学会でも容易に参加できるようになり、知識を取得する選択肢が増えたと考えるため。
・ 現地に行かなくとも聴講できるようになったため、参加がしやすくなった。そのため新たな情報が得やすくなった。
・ 現地に行く時間や余裕がなくても web で気軽に情報を得ることができるため。
・ 現地に参加する必要性がなくなったため大学での時間が確保できる
・ 現地に赴く必要が減り，移動時間の短縮が可能となったため。
・ 現地へ赴く手間が省けた。
・ 現地以外からでも学習できる機会がふえた。
・ 交通時間や懇親会の時間短縮されたから
・ 効率化したと思いますが、オンラインだけでいいとは思いません。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 効率的に web learning ができるから
・ 効率的になった
・ 好きな時間に見られる
・ 講義・会議・学会に参加しやすくなり、研鑽を積むチャンスが増えた
・ 講習会をうけやすくなった。
・ 高額な渡航・滞在費用のせいで諦めていたいくつかの国際学会・会議への参加がオンラインで可能になった。
・ 国際学会参加への敷居が低くなった。
・ 最新の知識を家にいながら習得できるのは良い
・ 参加できる会議が増えたため、学習の機会は増えたから。
・ 参加できる学術集会が増えたため、視野が広まった。
・ 参加の機会が増えた
・ 子供が寝てから動画視聴や会議に参加するなど出来るようになった。
・ 時間、場所を問わず学会や会議への参加が可能になったが、それがいいことばかりではない。
・ 時間がかぶった複数の演題を見られる。移動の疲れがない
・ 時間と場所にしばられなくなった。
・ 時間の確保がしやすくなった
・ 時間の有効利用が可能
・ 時間や場所に制限なく参加できることで、参加機会が増えたから。
・ 時間場所を問わず相談ができる。
・ 時間節約ができる
・ 時間調整がつきやすくなった。
・ 時間的・距離的制約に縛られない
・ 時間的・空間的制約があった学会参加などによる情報収集が格段にしやすくなった。
・ 耳学問の機会が増えた. 特に他分野に参加しやすくなった.
・ 自分の時間で働けるようになった
・ 実験しながら講演などを流しておくこともできるので、実験の時間をつぶさずに済むこともあった。
・ 受講できる機会が増えた
・ 習得できる知識が増えたから
・ 出向く手間は各段に減ったため、時間が確保できると考える。
・ 出張回数が減った
・ 出張不要で研究を止めなくてよくなった。
・ 出費が減った。見たい演題、講演を見られる。オンデマンドで振り返りもできる。
・ 上司に誘われていやいや行くだけの時間がもったいない。実参加でしたポイント付与しない学会もあるが、何がしたいのかわからない。
・ 情報が広く入ってくるようになった
・ 情報を得やすい
・ 情報量が増えた
・ 新しい情報を得やすくなった
・ 新しい知見を得る機会が増えた。
・ 人手が無くても学会参加できるから
・ 数日間の出張がなくなることにより、実験にかける時間が確保しやすくなった。
・ 世界とのつながりが近くなった
・ 全国の研究会や学会を聴講できる
・ 他施設に行き来せずに研究打ち合わせが可能となった
・ 他施設の講義などをオンラインで聞きやすいことは良い。
・ 多くの情報が手に入れられる
・ 多施設研究の会議に出席が可能となった
・ 対面だけでなくても開催できることが分かり普段参加できない人もできるようになった
・ 対面よりも出席しやすくなっている。
・ 知識をアップデートしやすくなった
・ 地方から中央へ出ていく必要がなく、移動時間をほかの業務に充てられる

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 地方のため手軽にアクセスできるのはメリット
・ 聴講目的の学会参加が容易になった
・ 日常業務の合間に参加出来る機会が増えた。
・ 発表もしやすいし勉強もしやすい
・ 不要な出勤が減り、休みことへの抵抗が減る
・ 普段行けない学会に参加できるようになった
・ 普段行けない勉強会に参加できる
・ 複雑な内容の研究発表においても、スライドを PC を通し明瞭に確認できるため、要点を整理しやすくなる。
・ 物理的に移動の手間や時間が省けたため、その他に割ける時間が増えた。
・ 便利
・ 勉強の機会が広がったから
・ 勉強の機会が増えた。
・ 勉強の充実
・ 無駄な会議の時に、他のことができるから。
・ 無駄な出張が減って時間がとりやすくなった。
・ 明らかにスライドが見やすい　移動が減ったので体力的に楽　場所の移動による遅刻が激減
・ 両面ありますが、ミーティングを設定しやすくなったのは良い

**変わらない

・ あまり研究に従事していないため影響なし
・ あまり研究をしていません。
・ いまのところ、研究に関しては実感がない
・ オンサイトに比べると研究者同士の交流は減っていると思うが、もともと知らない人との交流を積極的にはかる性格ではないから。
・ オンデマンドによる様々な学会への参加が可能になった一方で、対面式で新たに関係を持つことが困難となっている。
・ オンラインではできない
・ オンラインで学会参加ができることはいいと思いますが、学会においては実際に質問したり、面会することで得られるものもあると思います。
・ オンラインの学会参加では参加するセッション以外、目玉のシンポジウムしか目を通さなくなり、学会期間中も病棟業務などをこなす時間が増えてしまっている。
・ オンラインミーティングで話し合えることが増えている
・ ここ 2 年研究をする時間そのものがありませんでした。医局長業務が忙しかったからです。
・ どう繋がるかまだ未知数　他学との交流は減った
・ また対面が始まっている
・ もともとあまりできていない。
・ やる事は大きく変わらない
・ 以前は研究業務をしていない
・ 以前よりメールでの連絡が多いため
・ 移動する時間は減ったが、学会会場での偶然の発見等の機会が失われた。
・ 移動などの時間が減った良い面もあれば、講義・会議・学会などの回数が増加したためその負担も多くなった。
・ 影響ない
・ 遠くの先生とやりとりはしやすくなったが、一方向性のやり取りになりがちでインタラクティブな交流は減ったように感じる。
・ 遠隔での打ち合わせが出来るのは負担軽減となる。一方で十分な議論はやはり対面の方が有意義と思う。
・ 遠隔地の出張がなくなり時間確保がし易くなったが、多施設との共同研究などの話があまり出来なくなった。
・ 可もなく不可もなく。オンラインの学会は参加しやすい一方で、日常業務に追われまったくみない間に期間が終了することもあるため。
・ 学会における研究報告はしやすくなった一方、学会への参加がオンラインという片手間でできる手段となったため、他業務と併用する機会が増えた。そのため集中して視聴しづらくなり、現在他者が行っている研究について把握しづらくなった。
・ 学会に行くことで日常と切り離される部分があった。それによって特定の時間を自己研鑽や情報収集に充てることができた面がある。しかし遠隔地での学会への参加が容易になり、オンデマンド配信などと合わせれば情報収集経路が増えた側面はある。
・ 学会に参加しやすくはなるが、モチベーションは低下する

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 学会や会議と、研究業務はほぼ無関係だから
・ 学会参加はオンラインでしやすくなりました
・ 学会参加は遠隔で可能だが、研究業務については大きな変化はないため
・ 学会発表がアーカイブ配信されることによって、時間のある時に興味のあることは情報を手に入れることが出来るようになった。
・ 機会は増えたが、仕事量も増えた。
・ 共同研究をしていないため、学外の研究者との接触がない。
・ 教育と同様、オンラインになった分浮いた時間が研究に費やせるわけではないため。
・ 欠点：その道のエキスパートに、雑多なことを直接聞く機会が減り研究の質やすすめ方にはマイナス。
利点：移動時間を研究に費やせるが、結局家族との時間でもっていかれる。（学会がないのなら家のことをというパターン）
・ 結局出席する人はするし、しない人はしない
・ 研究していなかった。
・ 研究する時間がない
・ 研究する必要を感じている限りは行う。
・ 研究とオンラインの機会が増えたことは関係ないため
・ 研究とオンライン会議・学会参加、講義は直接関係しない。
・ 研究についてはオンラインの影響は少ないから
・ 研究にはあまり携わっていないので
・ 研究には携わっていない
・ 研究に対するモチベーションはオンラインで影響を受けることはない
・ 研究に費やす時間が多く無いため。
・ 研究に変化があるほどではない。
・ 研究の実業務には影響がない
・ 研究はあまりしていない
・ 研究はある程度自発的に行うものなので、形式による影響は少ないと感じる
・ 研究はオンラインではできないから
・ 研究は孤独なものと考えているためです。
・ 研究は動かないといけないため。
・ 研究も本人の積極性によるところが大きい為。環境の影響もあるが主体とは思えない。
・ 研究をしていないため変化なし、としました
・ 研究を常時している訳ではないから。
・ 研究業務にオンラインの講義や学会が関係ないため。
・ 研究業務にはさほど影響がない。
・ 研究業務に関わる時間は変わっていないと思う。
・ 研究業務はまた別
・ 研究上に影響はしなかった
・ 研究内容に変化はないから。
・ 研究内容の質を維持する努力をしている
・ 元々、研究業務にあまり携わっていないです。
・ 元々あまり時間をかけていないから
・ 元々できてない。
・ 現在のところこれといった研究成果が得られていない為
・ 現地へ出張するための移動時間が軽減されたため。
・ 最新の知見を取り入れやすくなった反面、他大学の知人との交流機会が減った
・ 参加しないので不明
・ 参加しにくかった学会へ参加しやすくなった一方で、人脈形成ができなくなったためトータルとしてメリットとデメリットが相殺されている。
・ 参加機会は増えたが「顔」が見られないことでフィードバックしにくくなった
・ 参加機会は変わらない
・ 時間外に頑張っている
・ 自身が研究業務を担っていないため
・ 自宅でできる研究ではないため。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 自分の取り組み方の問題
・ 質に変化がないから
・ 実際に、実験室に行かないと意味がない。
・ 出席しなければならないオンライン会議も増え、意外と時間が削られるため。
・ 情報収集労力に変化なし
・ 診療と教育ですでに手一杯であるため
・ 他に携わってくれる方がいないので、以前と変化ない。
・ 対面でのディスカッションなどはやはり機微を共有するのにある程度必要。
・ 長距離移動が減り、研究時間を確保できるようになったが、一方で、対面式議論の機会が減った
・ 直接の議論の場が減った反面、参加できる学会数が増えたため
・ 特に影響を感じないため
・ 特に仕事内容や質に変化を感じない
・ 変化があったか不明なので変わらないと回答したため、理由は特になし
・ 良い面と悪い面があるので一概にどちらとは答えられない
・ 良い面と悪い面の両方があると思う。良い面としては交通費などから参加できなかった学会に参加できるところ。悪い面としてはディスカッションや対面での質問ができず、議論が深まらないところ。
・ 良くなって点も悪くなって点もある。良い、悪いの単純は話ではないと思います。
・ 臨床研究主体のため、研究への影響は感じません
・ 臨床試験のミーティングに移動しなくて良くなった程度

**悪くなった

・ オンサイトで学会参加すると、当初興味は無かったがフラッと入って聴講したセッションで、思いのほか学びがあったりする。知人との直接的な会話で知識が共有される。オンラインだと役割があるセッションのみの参加だったり、聴講していても途中で寝てしまったりする。
・ オンラインではどうしても双方向の議論が難しいと考えるため
・ オンラインでは学習効果が限定的であるため
・ オンラインでは通常業務を行いながらとなるため、学会参加時間が減り、知識習得が不十分となる。
・ オンラインでは伝わりにくい面が多い
・ オンラインの学会参加は、自分の発表だけして、他の発表は聞かなくなってしまうことが多い（現地に出向いておらず、勤務地にいるため、通常業務を結局こなすことになるため）
・ オンライン会議は便利な半面、開始時間の制約が緩くなっていて、これまでより時間的に拘束される機会が増えた。
・ オンライン聞いてます？
・ まだ慣れていないため。
・ モチベーションの低下
・ 安易な WEB 化で物理的な量が増加し、負担増での質低下を来たしている。
・ 会議が増えて、研究にかける時間の確保が難しくなった。
・ 外部の意見を取り入れる機会が極端に減った。
・ 学会での交流、議論などが減った。
・ 学会などに参加しやすくなった反面、日時や期限を失念し参加回数が減ったため。
・ 学会に行かなくなった
・ 学会に伴う診療制限がなくなり毎日が手術麻酔というのは面白くないし、疲れるから。
・ 学会参加したい時間に病院にいるという理由で診療をさせられる。
・ 学会参加しなくなってきた
・ 学会参加時にできた仕事ができなくなった（論文執筆など）。
・ 学会参加者の皆さんと直に話を伺うことで、研究のヒントなどが生まれるところが、無駄な時間がなくなったことで、少し変化はあると思う
・ 議論しにくい
・ 興味の低下
・ 研究の時間が減った
・ 研究業務より労働時間を優先してしまうため
・ 研究時間は増えたようには思う。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 研究者同士の直接会っての意見交換の機会が減り、新しい情報が入ってきにくい、コラボレーションしづらいと感じることがある。
・ 研究発表に対するフィードバックが不足している。
・ 現地に行かずに発表ができて便利になる代わりに、その余った時間で日常業務を求められるから。
・ 現地の学会に出席する方が集中できる。
・ 現地参加が減り、モチベーションが低下した
・ 講義・会議・学会参加の回数が増えたとしても、自分から探す能力に応じて、そこで得られる情報に差があり、かえって全く知らないで終わる、機会を失うことも増えたから。
・ 今までは学会参加中は勉強できていたが、オンライン開催だと良くも悪くも現地に行かず参加できてしまうため、働きながら学会に参加することがほとんど。そうすると自分の発表以外のところは全く聞く機会がない。
・ 参加意欲が減った。
・ 時間がない
・ 時間が減っている
・ 時間や人数が限定的で内容を膨らませて行くことが難しいため。
・ 自己研鑽ではないので、しなくなった
・ 質疑や討論の質は必ず落ちる。対面に比べて。
・ 実際の対面の機会が減ったため
・ 集団での意思疎通に齟齬が生じやすい。喩えていうならば、潤滑油がなくなっている。
・ 情報入手ができなくなった
・ 診療業務に駆り出され、学会に参加できなくなった
・ 人の直接のつながりがないのは致命的に悪い。誰がこんな社会にしたのか？馬鹿らしい。勉強せずコロナを怖がり、ワクチン推すばかりの人間のため。
・ 他組織の人からの意見を聞きづらくなった。
・ 多施設の研究者との交流が減り、コラボレーションの機会が減った。
・ 多施設医師とのコミュニケーションの機会が減った
・ 対面での交流から得られるものが大きいと感じる。
・ 対面での情報交換が少なくなり、コロナ時代以降の新規人脈形成がない
・ 対面の方が真剣に参加するため
・ 対面式でないためちゃんと発表を聞いてない先生も多い
・ 壇上での議論以外の雑談と呼ばれる情報交換が研究には必要だから。
・ 知識を求めないと得られない時代になった
・ 直接のかかわりが持ちにくくなった
・ 直接の交流がないと新しい先生との出会いが少ない。
・ 当初学会などでは、現地に行かないでも単位が得られるので楽だと思っていた。しかし、Zoom 会議では専門分野の研究者同士が直に会うことで出来る話が出来無かった。
・ 動画の録画、登録など余分な手続きが増加した。
・ 入手できる情報が激減した。発表のみからの得られる情報は、極めて少ない。
・ 聞いていない

助教・女性

****良くなった**

・ Web カンファレンスが増えてカンファレンスにも参加しやすくなった
・ Web で学会に参加できると、小さい子供がいる家庭の人間も最新の研究に触れる機会が保てる
・ Web 講演会などに参加しやすくなった
・ Web 参加だと移動時間を他の事に使う事が可能であるため。
・ Zoom などの発達でやり取りがしやすくなった
・ いままで参加できなかった遠方の学会や研究会に気軽に参加できるようになった。
・ ウェビナーや学会に web 参加できるなど研究の質向上の機会が増えた。
・ オンサイトでは参加できない勉強会や学会にも参加できるため
・ オンラインであればより多くの学会、研究会に参加することができ、勉強の機会が増える。子供が小さくても遠方の学会への参加をあきらめなくてよい。
・ オンラインでの学会、ミーティングができることで、参加できる範囲が広がり、知見も増える

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ オンラインでの学会参加は時間をかけて講演を聴講することができ、現地参加より知識を得ることができることがあるため。
・ オンラインで研究会に参加できるようなり、情報収集はしやすくなった
・ オンラインで他施設とのミーティングが容易になった
・ オンライン会議は場所が限定されず参加しやすい
・ オンライン学会参加が可能の場合、視聴の際のみ参加でき、研究業務にあてる時間が増えてよい。
・ オンライン参加により、より参加できる学会などが増えた。
・ こどもがいるために参加できない学会が少なくなったから
・ これまで参加できなかった学会や会議なども家にいながら参加することが可能になったため。
・ タイムロスは減った
・ ミーティングなど開催しやすい
・ ミーティングはほぼ ZOOM になったので、出張頻度が減り、人と会いやすくなった
・ より学会参加やセミナー参加が行いやすくなった。
・ 移動による時間消費がないので、研究時間に費やせる。
・ 移動時間、宿泊先等で出来ないものが出来るようになった
・ 移動時間がなくなったため時間に余裕ができたため
・ 移動時間が軽減し、負担が少なくなった
・ 移動時間が減った
・ 移動等による時間のロスが減った
・ 移動等の時間が節約できるようになった。
・ 育児と学会参加が両立しやすくなった
・ 育児のため現地に行けなくても参加、視聴できる機会が増えたから。
・ 育児中でも遠方の学会にオンライン参加できるようになったから
・ 遠隔から学会や会議に参加しやすくなった
・ 遠方での学会参加もオンラインでできるようになった。このことで聞く機会を逃した講演も聞けるようになった。
・ 遠方の学会にオンラインで参加できるようになった。
・ 遠方の学会に参加できる
・ 遠方の人とカンファレンスがしやすくなった。遠方の学会や勉強会に参加しやすくなった。
・ 遠方の人と気軽に会話できる
・ 家でも聞ける
・ 家で子供がいても勉強会などに参加できるようになったから
・ 家庭の都合で参加を諦めていた学会などに参加することができるようになり、さまざまな研究の報告に触れやすくなった。
・ 会議がしやすくなり、早く進むようになった。
・ 会議や学会参加がオンラインだと、移動時間が減るので研究に時間がまわせること、現地まで行かなくてよいので、
・ 学会にオンラインで参加する機会が増え、情報を手に入れやすくなった
・ 学会に参加する際の選択肢が増えたため
・ 学会の移動の時間が削減できたため
・ 学会への移動が必須でなくなった
・ 学会への移動に費やす時間がいらなくなったから。
・ 学会や研究会に参加しやすくなったから
・ 学会会場に向かわなくても、ある程度の情報を得ることが出来るようになった。
・ 学会会場に行く予定をとらずにすむから
・ 学会参加には大きなメリットがあり、情報を得やすい
・ 学会参加のために現地移動する時間が節約できる、アーカイブ配信が便利
・ 学会参加のための移動時間がなくなったため、その分研究時間に充てられる
・ 学会参加のハードルが低下した。
・ 学会参加への敷居が低くなることもあり、講演などを部分的にでも聞けることには意味があると思います。
・ 学会参加も同様。子供を同伴しなければならない負担がなく、必要な勉強ができるようになった。
・ 学会等の参加がしやすくなった
・ 学会発表や講演をオンデマンドでじっくり見られるようになったから
・ 基本的に学会は遠方のため、育児中は参加できないことも多く、現地に行かなくても勉強機会が得られるため。
・ 気軽にオンラインで学会参加が出来るため、時間が有効に使えるようになった。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

- 気軽に学会や勉強会に参加できるようになった
- 共同研究によるミーティングが頻繁に且つ効率的に行える。成果の発表を予算や時間を気にせず公表できる。
- 共同研究も気軽に進められる。
- 研究しながら学会参加ができるようになった。
- 研究はデスクワークが多いため、パソコンでアクセスしやすい
- 研究時間はより増やせるようになったと感じる
- 研究打ち合わせが効率的になった、オンライン学会もありがたい
- 研究内容に関する他施設とのディスカッションがしやすくなった。
- 研究発表や学会聴講の際に、学会会場に行かなくてよくなり、時間節約になった。おそらく、研究立案～施行に際しての会議なども、オンライン環境が整備されたことにより、遠隔地同士では特に相談しやすくなったのではと考える。
- 現地にいかなくてもできることが増えた
- 現地に行かなくても学会に参加できるようになった。
- 現地に赴かなくとも最新の知見が得られる
- 現地に赴く必要がなくなったため。
- 現地開催では参加できない時間帯も参加しやすくなった。移動時間がかからないので、他の研究者とのアポなどもハードルが低くなってコンタクトしやすい。
- 現地学会参加がむずかしくても知識が得られる
- 現地参加のための移動や家を不在にするための家事の時間が減少したため
- 交通費の無駄がなくなる
- 効率的になった
- 行かなくても知識を得られたり、オンデマンドで講義を受けられるのは、自分の時間が制限され、遠方に行くのが難しい時にはすごくありがたい。
- 懇親会や移動時間等が減ることで効率的に学べる。
- 最新の知見を得る機会はより平等かつ有効となっている。
- 参加しやすい　所要時間の短縮
- 参加しやすくなり、知識が増えた。
- 参加しやすくなりました
- 参加できる学会の数が増えたため、知識が増えた
- 参加費を払えば業務を休まなくてもオンデマンドで聞けるものも増えてきた
- 参加方法の選択肢が増えた
- 子育て中でも参加しやすいため
- 子育て中で地方に行けない時も、情報を得やすくなった。
- 子供の運動会と毎年学会が重なり参加出来なかったが、オンラインになり現地に行かなくても学会参加できる様になったので助かります。
- 子供を家で見ながら参加するなどしやすくなった
- 時間がなくても関連学会に参加することができ、新しい知見を得られる
- 時間の節約になり、その分研究活動に時間が回せる
- 時間を気にせずに参加できる
- 自ら望んで出席するセミナーなどは、利便性の向上の良い面の方が強いと思います。
- 自宅からでも学会に参加できるから
- 自宅からでも自己研鑽や情報収集ができるため。
- 自宅での勉強ができるようになった。
- 自宅で育児や家事しながら勉強できるようになった
- 自発的に情報収集しやすくなった
- 従来であれば遠方の開催で諦めていた学会に出席出来るようになったので
- 従来は研究（例えば細胞培養など）で研究室を離れ慣れずに、特に遠方の会への参加ができないことがありました。しかし、オンライでの講義、会議、学会が増えたことにより、主戦場を離れることができない研究者も会に参加することができ、とても有効であると思います。
- 出向かなくて良い
- 出張しなくても学会に参加できる
- 出張せずにオンラインで学会参加できる機会が増え、子育て中なので助かっている。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 出張に使用する時間が減少した
・ 出張時間が減った
・ 情報が後からでも仕入れられる。
・ 世界とのオンライン交流はコロナ禍で増えた。
・ 専門外知識に触れたり遠方の識者とコミュニケーションしやすくなった
・ 他施設がどんなことをしているか、わかるようになった
・ 多くの学会にリモート参加ができるようになった。
・ 多くの情報にアクセスできるため
・ 多施設共同研究や他県（他国）との研究がオンラインで打ち合わせできるようになり、距離的な制約を感じにくくなった。
・ 地方から東京へ移動する無駄な時間を研究にあてることができた。
・ 聴講については現地に行かなくて済むので自由時間が増えて良くなったが、発表については学外研究者との交流がしにくくなって研究に関する情報交換が乏しくなった。
・ 直接現地に行かなくでも良いので、時間がとれる様になった。
・ 得るものが多くなるから。
・ 内容に興味関心があっても時間・場所の関係で参加できなかった学会等に参加できる。
・ 幅広く参加できるようになった
・ 勉強する機会が増えた
・ 無駄な移動時間が減った　海外とのやりとりがしやすくなった
・ 無駄な時間減った
・ 夜に行うことが多かったため、オンラインならば参加することができる
・ 様々な学会に参加しやすくなった

**変わらない

・ あまり関わっていないため
・ あまり研究ができていないから
・ オンラインでの参加をしていないから
・ オンラインで一時期は学会に参加しやすくなったが、もう学会も現地開催だけになっている。だからもうオンラインのメリットはない。
・ オンラインには利点と欠点があるため。
・ そもそも研究業務が少ない
・ そもそも研究業務は自分の余裕のある時間でしかしていないため
・ もともと研究を積極的に行なっていないため
・ もともと人手不足で研究に関わる時間がほとんどない
・ やることはあまり変わりません。
・ 以前やってなかったので
・ 影響なかった
・ 遠方の研究者との会議は行いやすくなったが、全体的にひとりの作業が多いので大きな変化はない。
・ 遠方の先生方との打ち合わせはしやすくなりました。学会でのディスカッションは減ったように思います。
・ 加しやすくなったが、新たな研究者とのコミュニケーション機会が減ったと思う
・ 会議がしやすくなったが、時間外の会議がむしろ増えた
・ 会議の回数が増えたことで良い面と悪い面がある
・ 学会に参加しやすくなり、情報を得る機会が増えたのはありがたいが、その一方で、参加により時間はとられる。
・ 共同研究や疫学研究を行うにあたって、顔を合わせて打ち合わせを行ったり、実地調査を行う必要がある。
・ 研究していないので不明
・ 研究として行うことは変わらないから
・ 研究などの少人数でのミーティングはオンラインでも十分に行うことが可能であり、また遠方の人ともスムーズにコミュニケーションをとることができるようになった。
・ 研究にフィードバックできるかは、個人の能力によるため、オンラインは関係ない
・ 研究に関しては自身のことのため
・ 研究に費やせる時間には限りがあるので変化していない。
・ 研究のための情報収集は学会ではすでに遅い情報である。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 研究の時間が減ったため特に変わらない。
・ 研究はもともと一人でやっていて、学会等の機会に共同研究者と直接会っての打ち合わせは必要ないから。
・ 研究は自分でするものだから
・ 研究への参加機会が少ない。
・ 研究をしていないから
・ 研究業務にはあまり関与していない
・ 研究業務に関わる時間や内容に変化がないため。
・ 研究業務に携わっていません
・ 研究自体ができなくなったがオンラインであるかは無関係
・ 研究自体は、自分でやらないといけないため。
・ 研究自体は変わらない
・ 元々研究をあまりできていない
・ 現在研究していない
・ 行かなくても受けらえるメリットはあるが、研究業務には変わらない。
・ 参加機会は多くなったが、現地参加ではないため気が付くと終わっていることもしばしば
・ 仕事が人不足で忙しく研究に回らない
・ 自己研鑽に費やせる時間はかわらない
・ 情報を得やすいというメリット。一方、多量の情報の取捨選択にも時間がかかること、リアルな場での会話などからヒントやアドバイス等が得られないデメリット。学会参加という職場から離れる気分転換ができないデメリット（特にコロナ禍は医療者は気をつけて外出など制限していることもあり）
・ 特に変化をきたすことがなかった。
・ 病院にいるため、研究にさく時間は変わらない
・ 変化を感じないから
・ 良い面と悪い面両方あるため。
・ 倫理審査が厳しくなり、新規研究もなかなか承認されず、滞っているため。

**悪くなった

・ Face to face の議論には欠ける
・ Web での学会参加が増えた結果、自分の興味のあるプログラムしか視聴しなくなり、研究の幅が狭まっている
・ オンデマンドだと、いつでも視聴出来ると思ってしまい、集中出来ない。
・ オンラインでは、体が病院にあるため日常業務から離れられず結局学会参加単位だけ取得するが、実際にはあまり参加できないため
・ ディスカッションしづらく、深い討論がめきないと感じた。
・ リアルで感じる刺激が減ることにより、意欲の低下が起きていた
・ 学会は、遠方や海外の学会にも参加しやすいが、勤務を休んでまで参加しないので、現地で参加するのと比べて、実際にはあまり見る時間がとれていない。
・ 学会参加が、現地へ行かないとなかなか落ち着いてできない。
・ 気軽なコミュニケーションによる研究アイデアの創発が起こりにくくなった
・ 議論がしにくくなったと感じる。
・ 議論できる場が少なくなった
・ 研究者同士の交流の場が少なくなった
・ 準備が面倒
・ 情報交換の機会が失われたため
・ 職場があまりにも劣悪で、本来保健所の認可がおりないところである。臨床系の研究をするにはかなりハードルが高い。最初からもう少し将来を見据えて法人は動いた方が良いと感じた。また、本院の科長、主任は、真剣味が無いため、結局、中途半端な診療科で始めてしまっている。
・ 直接顔を合わせて話し合うことは研究を進める上ではかなり重要だと感じた

助教・回答しない

**良くなった

・ 遠方までいかなくても職場や自宅でオンデマンド配信で情報収集ができるため

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 時間が有効に使える

**変わらない

・ 研究の時間など持てない。
・ 研究してない
・ 個人的にオンラインをほぼ使用しないため。

**悪くなった

・ 移動分の労働強化
・ 学会に参加しないので予期せぬものに遭遇できなくなり、研究のアイデアには悪そう。

医員・男性

**良くなった

・ アクセスしやすい
・ ウェビナーに参加しやすくなった
・ オンラインで仕事ができる。
・ カンファレンスに参加しやすくなるため
・ しがらみはなくなったオンライン化でフットワークは軽くなった
・ フレキシブルにミーティングができるため。
・ より多くの学会に参加できるようになったため。
・ より多様な形で研鑽を積むことができるようになったため。
・ ワーキンググループのディスカッションの機会が増えた
・ わざわざ現地に行く必要がなくなった
・ 移動の時間がないので参加しやすくなりました。
・ 移動の時間が不要となった。
・ 移動の手間が省けて時間を作りやすいから。
・ 移動時間が短縮されたため。
・ 移動時間が無くなることで、学会等を視聴、閲覧する時間が確保でき、また遠方であっても参加しやすくなった
・ 移動時間の短縮と遠隔で参加できることにより会議が開催可能な日程が増えたため
・ 移動時間をとられずに済むから。
・ 移動時間等が節約されたため
・ 遠くに行かずに学会に参加することができるようになった
・ 遠隔での講演に参加できるため。
・ 遠隔のため、移動に時間がかからない。
・ 遠隔地の学会にも参加のハードルが下がった
・ 遠方でもアクセスできる
・ 遠方の協力企業と、WEB 会議ができるから
・ 学ぶ機会を増やせた
・ 学会には参加しやすくなりました。
・ 学会会場への移動時間の短縮に繋がった。
・ 学会会場までわざわざ長距離の移動をする必要がなくなったから。
・ 学会発表は仕事を休む必要がなくなるので楽になります
・ 割ける時間は増えた
・ 感染リスクを減らすことができた。効率よく業務を行えることで研究業務の時間を増やすことができた。
・ 気軽に学ぶ機会が増えた点はよいが、対面議論の機会は減った
・ 距離的に行けない学会にも参加できるようになった。
・ 勤務先から勉強会に参加できる。
・ 研究に関するオンデマンド配信も見られるようになったから。
・ 研究協力者との密な連携が取れる
・ 研究時間確保が容易になった
・ 研究進捗に関わる会議も、オンラインならすぐに可能。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 研究班全員が揃わなくても会議ができるようになり、研究内容の相談がしやすくなったため。
・ 現地に移動する無駄な時間がへった。学会が年間 20 回もあるひとにとっては有用。
・ 現地に行かなくても確認することができた
・ 現地に行かなくても最新の知見が得られやすくなった。
・ 現地に赴かなくても参加できることで、その他の業務などに当てられる時間が増えたから。
・ 現地参加以外の情報収集が可能になったため。
・ 効率よくできるようになった。
・ 講演会などがウェブ視聴できるため、参加しやすくなった。
・ 参加しやすくなった。
・ 参加の機会が増えた
・ 仕事の合間に学会参加が可能になった。
・ 時間に余裕ができるため講義、学会に参加できる
・ 自宅でも参加できる
・ 自分がやるべきことに集中できるようになったため
・ 自由な時間に視聴できるため、当直中の空き時間などを利用できるようになった
・ 手軽になった。
・ 出張費用と移動時間が節約できた。
・ 情報源が増えたため
・ 色々な講演、研究会への参加を通じて知識が深まったから。
・ 他の機関の研究者とオンラインで議論したりできるため。
・ 他の発表を参考にしやすくなった。
・ 他大学とのカンファレンスが行いやすくなった
・ 多数の学会にオンデマンドで参加しやすくなった
・ 都心への移動の手間と経費が省けるため
・ 特に学会に関して移動時間が無くなったのと、オンデマンド配信により、すき間時間などを利用して参加できるようになった。
・ 不要な物がなくなった
・ 勉強会などに参加できる機会が増えた。
・ 容易に学会参加ができるようになった。
・ 連絡がとりやすくなった。

**変わらない

・ あまり関わっていない。
・ オンラインで参加する機会は増えたが、現地での参加が少なくなった影響もある。
・ オンラインは便利ですが、結局流し見してしまう。
・ これに関しては良い面と悪い面がある。
・ そもそも研究絡みの学会等は少ない。
・ まだ研究には携わっていないため
・ 影響がない
・ 環境にかかわらず必要な情報であれば取りに行くから。
・ 基礎実験に影響はなかった
・ 研究カンファレンスなどをオンラインシステムで実施できるため
・ 研究には影響しないため
・ 研究に携わっていないため。
・ 研究は最終的に現場に帰るから
・ 研究業務はほとんどしていないからわからない。時間を確保しやすくなるのでプラスが大きいとは思う。
・ 研究業務は本年から開始しており以前との比較ができないから
・ 元から 1 人でやるため、コロナの影響を余り受けてないから。
・ 自分の業務の範囲では大きな差を感じない
・ 自分自身があまりこれまで研究業務に携わってこなかったため。
・ 実地の交流はないようなオンラインの機会が増えた
・ 手軽に参加できるが、議論の機会が失われ研究が深化しない

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 場所によらず受講できるが、質は低下する
・ 大して役に立っていないから
・ 大学いながら学会に参加できるので研究に影響なし
・ 直接の討論はしづらいが、アーカイブ配信があれば必要な情報は得やすくなった。
・ 特に変わらない
・ 独りよがりが多いので変わらない
・ 普段通り行うことがよい
・ 本質的には変化がないから
・ 良い面悪い面がある。会議は行いやすくなったが、勤務時間以外の参加時間も生じ得るためどこまでを許容するかは難点。学会については、他施設との交流は現地参加でないためできず、その点はデメリットであると思われる。
・ 良くも悪くも変わらないと思います。

**悪くなった
・ オンラインでは、討議がしづらく、研究者間の情報交換が減った。
・ オンラインでは限界がある
・ オンラインで発表させられる回数が増えたので相対的には家族の時間を奪われた
・ これまでは開催地の関係でいけなかったが、今はオンライン参加ができるようになり取られる時間が増えた。
・ やはり現地で学べることは多い。
・ 現地参加へのモチベーションの低下
・ 最新情報のアップデートが困難になった
・ 参加しなくなった
・ 事前準備が煩雑になった。
・ 対面でないと、直接のやり取りがしづらいため
・ 必要以上に過剰に勉強会があり参加させられる

医員・女性
**良くなった
・ web で勉強会や意見交換会をする機会が増えたから。
・ アプローチしやすくなった。
・ ウェビナーが増え利便性が良くなったから。
・ ウェブで情報収集しやすくなった
・ ウェブで新しい情報をえられやすい
・ オンラインで参加できるようになって、遠方の学会で、保育施設を手配する大変さがなくなった。
・ オンラインで聞ける講義があるため、移動の時間が削減できる
・ コラボする企業は東京の企業だったりすることが多いが、オンラインだと週 1 などの定期的なミーティングができ、研究進捗の確認などが細かくできるようになったため
・ わざわざ現地に行かなくてもよいため、研究時間を確保できるから。
・ 以前は出席できなかったから
・ 意欲のある人にとっては講義や会議、学会に参加しやすくなったから。
・ 移動しなくて済む
・ 移動にかかる手間が減った。
・ 移動時間がないため、参加しやすい。アーカイブなどがあることも多く、自分の時間で講義の聴講が可能となった。
・ 育児など、自宅から離れられない状況下でも、学会参加の機会が増えた
・ 育児中でも参加できる
・ 遠征が減って時間が出来るから。
・ 遠方の学会に参加できる、複数の学会に参加できる。出張費は出ないのでオンラインがありがたい。
・ 学会にオンラインで参加できるようになり、子育てしながらでも学会業績を増やせた。
・ 学会や研究会の参加がしやすくなった
・ 学会参加のための移動時間がなくなることで、研究に時間を使える
・ 気軽に参加しやすくなった
・ 気軽に多くのセミナーや学会に参加することができ、幅広い知見を広げることができた。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 好きな時に参加できるため
・ 在宅ワークが出来るようになり、研究と育児の両立ができやすくなった。
・ 参加できる会議や学会が増えた
・ 参加できる機会が増えた
・ 子育てしながらリモートで参加しやすくなった。
・ 子育てのため、現地に赴くことができないため、オンライン開催は大変ありがたい。
・ 子育て中でも参加しやすい
・ 子供を預けなくても勉強会に参加できる
・ 時間が取れる
・ 自宅にいながら、カンファレンス参加や遠方での学会参加が可能になった。特に育児や介護をしている場合、非常に有用。
・ 従前はリアルタイムかつ現地でないと受けられない講演をネットで業務後に見られるようになったため。
・ 出張（移動）が減って、時間が確保しやすくなった
・ 小さい子どもがいるので、参加しやすい。
・ 情報を仕入れやすい
・ 情報源が増えた。
・ 身体的な理由で断念していた機会を、自宅から参加できるようになった。
・ 聴きたい講演を好きな時に聞ける
・ 勉強しやすくなった。
・ 旅費への制限があり、遠方へ行くのを遠慮していたがオンライン学会が増えたので参加しやすい

**変わらない
・「研究」業務に携わることがないため
・ ハイブリッド形式のため。
・ メリットデメリットともにある
・ 該当しない
・ 関係ないと思います。
・ 研究にさく時間がない
・ 研究に定期的には従事していないから
・ 研究はあまりしていません
・ 研究はオンラインではできない
・ 研究はしていないので、よくわからない
・ 研究を行っていないため
・ 研究業務に従事していない
・ 研究業務を行っていないため不明
・ 研究内容の実際は手作業によるものが多く、特にオンラインによる不便も便利さも感じていないから。
・ 元々していない
・ 元々研究には関与していない
・ 現在、自分は研究をしていないから。
・ 現在研究に携わっておりません。
・ 通常業務が減らないので参加できない
・ 特に研究には影響しなかったから。
・ 特に変化を感じない
・ 忙しくて変われない

**悪くなった
・ 学会休暇がなくまとまった時間が取れないので細切れ視聴になりやすい。結果必要最低限のものしか視聴しないこともある。
・ 対面での意見交換の場が減り、研究に必要な指導も思うように受け辛くなった。
・ 日常臨床をしながら学会に参加可能となり学会に集中できない

医員・回答しない
**悪くなった

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・オンラインの場合は、日常業務を学会参加に切り替えられず、業務の合間に参加することが多いため、優先度の高い内容だけ聴講することになる。そのため、関連分野などの聴講が減り、研究への発想など、多角的視野の養成について学会を有効活用できていない。

専攻医・男性

**良くなった

・いつでもどこからでも参加できる
・スムーズになった
・より情報を得やすくなったから
・移動の手間が省ける
・移動時間の短縮
・遠くまで行く必要がなくなったから
・遠隔地との交流が進みやすい
・会わずに相談できて良い
・学会参加しやすいため情報が手に入りやすい。
・研究の打ち合わせやデータ管理を共有するツールが増えてやりやすくなった。一方知識の習得においては、ストリーミングや配信の学会は多忙などで結局視聴しないことも多く、却って現地参加の学会でこそ集中して話を聞けていた。
・研究発表がポスターのみで可能となり、ハードルが下がったから。
・県外からの情報を収集しやすくなったから。
・現地にいかなくてよく参加しやすくなった
・現地に向かわなくても良いため、研究時間が増える。
・現地に行く手間が省けるため
・現地参加しなくても学会参加できるようになった。
・参加しやすくなった
・参加できる公演、視聴できる発表が非常に増えた。
・場所を問わずにカンファレンスなどを行えるため
・色々な研究者と場所を問わず相談できるようになった
・日常業務で現地に行くことができない状況であっても、学会活動などに参加可能となり、そのような活動への敷居が低くなっているため。
・普段関わらない人とも関われるようになった
・勉強できる機会が増えた。
・様々な学者、世界の研究者と接する機会が増えた。これは日本においては、チャンスである。All Japan 体制でアメリカ、中国はじめ世界の列強と組みするにあたり、これを使用しない手はない。

**変わらない

・オンラインになってもカンファレンスの内容が変わらなければ影響ないと考えます。
・オンライン未導入
・そんなにやってないから。
・まだあまり研究に携わってないから。
・リモートで研究はできないので
・学会参加の準備時間は変わらないため
・研究業務を行なっていない
・研究にあまり携わっておらず分からない。
・研究に携わる機会がほとんどないのでわかりません。
・研究レベルでは実感しない
・研究をしていないから
・研究業務についてまだあまり実感がわかない
・研究業務に関しては不明
・研究業務に従事していないため回答不可
・研究経験ないため不明
・現在、研究関連はほぼしていない。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 現在は研究業務に携わっていないので詳しいことは分かりません。
・ 現時点で特に研究をしていないのでわかりません
・ 交通にかける費用と時間、労力が減ったため、より参加しやすくなった。その分新しい知見が手に入りやすくなった。ただ、直接向かい合って話す機会が減ったため、意見交換を交わす機会が減ったという欠点もある。
・ 今の自分の立場的にはあまり関係がなく評価できない
・ 今年から赴任しており、比較検討は難しい。
・ 自主的に行うもので、変わらないと考えます。
・ 良くなった点と悪くなった点が相殺している

**悪くなった
・ オンライン開催における臨場感の低下
・ 研究が行き詰まると、効率改善のための気分転換が必要だが、その機会が失われる
・ 現地に赴く機会が減り、時間は確保されるようになったが、直接的な対人関係の構築の場が失われたことにより、より活発な意見交換などがしづらくなったから。

専攻医・女性
**良くなった
・ オンラインでの情報を得る機会が増えたため
・ オンラインで行うことで、現地へ行く時間を節約できて、研究に使える時間が増えるからと思います。
・ オンラインは便利
・ ミーティングなどへの参加が容易になった
・ ワンオペママ女医なので、外での研究会などの参加は物理的に無理。ズームなら参加できる。
・ 移動時間が減ったことにより、研究にあてる時間が増えた。また、オンラインでの講義や学会参加により情報収集しやすくなった。
・ 育児中でも自宅から参加できるのがありがたい。
・ 遠距離でも気軽に参加でき場合によってはあとから見返すことができるため
・ 会場に出向く時間が省けるため
・ 学会参加のハードルが下がった
・ 研究に関する内容を受講しやすくなった
・ 現地にいけなくても研究に参画できるため。
・ 現地に行く以上に多くの講義・発表を聞く事ができる
・ 最新の情報が入りやすくなったから。
・ 参加しやすい
・ 参加によって業務に支障がきたしにくくなった
・ 参加層が増えた
・ 時間効率が良くなったため
・ 自分次第で勉強がいつでもできるようになった
・ 場所を選ばず参加できるようになったので良かった。
・ 打ち合わせの効率が良くなった。
・ 田舎在住なので、移動しなくてよいのは本当に良くなったし、育児しながらでも参加できるので非常にありがたい。研究の時間が取りやすい。
・ 勉強しやすい
・ 本来現地であれば参加できなかった学会にも気軽に参加できる. 開催期間中に何度も動画を見ることで知識の定着をはかれる教育, 研究, 診療に活かせるから. 今後もぜひ続けてほしい習慣である.

**変わらない
・ あまりできていない
・ あまり実感がわいていない。
・ オンライン前の実態を知らないから。
・ もともと研究に関わりが少ない
・ 何も変わらない

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・研究していません
・研究に従事しておらず不明。
・研究はしていないのでわからない
・研究は特にしていないから。
・研究業務にあまり携わっていないため
・研究業務に関してはわからない
・研究業務に携わっていない

**悪くなった
・現地開催の学会が減った

臨床研修医・男性
**良くなった
・オンラインになった事で講義や学会に参加しやすくなりました。
・オンライン会議で遠方の研究者との情報交換がスムーズに行えるため。
・カンファレンスや会議に参加するハードルが下がった。
・機会が増えた
・参加しやすくなった。

**変わらない
・研究に携わっていないため
・研究はしていません。
・研究業務を行ったことが少ないため。
・講演内容は変わらないから

臨床研修医・女性
**良くなった
・現地に行かなくても情報を手に入れられるから

**変わらない
・まだあまり関わりがなくわからない
・まだよくわからない
・会場へ行く手間がないため時間に余裕ができるため。
・研究をしていない
・研究時間には関係ないため

その他の医師・男性
**良くなった
・オンラインだと音声が明瞭でスライドも見やすく、会場にいるよりもよく理解できます。
・スピード感をもってプロジェクトがすすめるようになった。
・移動する時間を有効活用できるため
・移動せずに参加できるようになり参加機会が増えた
・移動の時間が短縮されて研究業務に影響することなく参加することができる.
・移動の時間を研究にあてられるから。
・移動時間がなくなるため、空いた時間を臨床や研究に当てることができる。
・移動時間が省けるため効率的になったから。
・会議の数が増えたので、オンラインになってもそれほど時間は変わらない。
・学会が web 開催だとこれまで参加できなかった状況でも参加できる機会が増え、研究内容の発表や、他大学からの発表を視聴できるようになったことで自己の研究にプラスに働いた。
・空いた時間で研究を進めることができるため
・研究に関しては、オンラインという選択肢が増えたことで研究者間の情報共有は進んだと思われる。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・研究に費やす時間が増えた
・自宅からの参加が可能となった
・小さい子供がいて家を空けにくかったが、オンラインなら参加できることが増えたから
・相談しやすくなった

**変わらない
・もともとオンラインでもあまり変わらない研究スタイルのため。
・会場への移動の手間が減少した
・研究についてはあまり変化なし。
・収集情報量に、特に変化がない。
・他の仕事が増えたため
・方式がかわるだけで、意識をもってやれば大きくは変わらない。

**悪くなった
・ハイブリット開催によって、今まで参加しづらかった勉強会等に参加しやすくなった一方、学会は現地に参加して対面で聴講しディスカッションすることで、得られる知識も人の繋がりも大きいと思う。

その他の医師・女性

**よくなった
・オンラインセミナーが増え、簡単に様々な情報を入手できるようになった。
・オンラインの方が手軽
・移動時間が無くなったので研究できる
・移動時間の短縮
・育児であきらめていた学会にも参加ができるようになった
・育児中でも最新の情報を得やすくなった。
・学会に参加しやすくなった
・学会等への参加頻度が増えたことで自分の研究に還元できる知識も増えたから。
・学外の先生ともミーティングしやすくなった
・楽になった
・研究を中断せずに参加できるから
・子供がいても学会に参加できるようになった。
・子供が理由で参加できないような遠方の学会にもオンラインで参加できるようになった。一方で質疑応答の機会が減り自分の研究へのフィードバックの機会は減った。
・時短のため自宅からでも参加しやすくなった
・全国規模の学会や会議など、よりよい情報共有ができるようになった。
・打ち合わせの機会を持ちやすい
・内容の詳細を検討することが可能になり、勉強することが容易となった。
・無駄な時間が減った

**変わらない
・あまり研究業務は担当していないため
・研究業務をしていないから。
・研究自体には影響がないように思う
・現在、研究業務に携わっていないため、わかりません。
・個人ではあまり変化を感じていない段階です。
・臨床に費やしている時間が主だから

**悪くなった
・コロナで対人関係が築きにくくなっているため
・学会をオンデマンドで聞けるようになることは便宜上よいが、直に様々な先生と会うことのほうかわ良い刺激となり、議論も盛り上がるから。

41. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「研究」業務に変化はありますか【記述】

・ 研究者同士の会話の機会が減った。
・ 準備が大変。慣れない仕事でより時間とストレスがかかる。
・ 停滞する

その他の医師・回答しない

**変わらない

・ オンラインで聴講する際、どうしても時間を割くという努力をしなくなる。

その他（特任研究員など）・男性

**良くなった

・ リモートで済ませられることが増えました
・ 移動時間が圧倒的に短縮された。ムダな懇親会に出なくて済むようになった。
・ 遠方からでも勉強会等に参加できたり、他大学の先生とコミュニケーションを取ることができるようになったから。
・ 遠方の研究者との会議が容易になった
・ 参加の機会が増え、より多くの知見を得られるようになったため。
・ 時間に余裕ができた
・ 余計な移動がなくなり業務の効率化となった。

**悪くなった

・ 共同研究の話やちょっとした裏話がきけなくなった

その他（特任研究員など）・女性

**良くなった

・ オンラインで効率的に情報収集が出来るようになった
・ これまでは時間がないと参加が難しかったものに、参加し情報収集等ができるようになったから。
・ これまで参加出来なかった学会や会議に参加出来るようになった
・ 移動の無駄が減った、参加しやすさが上がった
・ 移動時間が減る
・ 遠い学会に参加するようになった。
・ 学会に参加しやすくなったため
・ 参加しやすくなった

**変わらない

・ オンラインでも時間がとられることには変わりないので研究時間も変わらない
・ オンラインに関係ない業務をしているので
・ もちろん、その場に行って勉強がベストだとは思いますし、質問回答などは現場でできた方が良い点もありますが、オンラインで講義や学会に気楽に参加できることで勉強の機会がかえって増え、研究にも良い影響を与えていると思います。
・ 研究業務に関わることが少ないため
・ 研究業務は行っていない
・ 研究等に参加していていないので何も感じてはいない。
・ 自分次第